

a&s

JAPAN

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

www.asj-corp.jp Jan/Feb. 2014 no.38



WEBGATEはHDcctv協会から3年連続
コンプライアンスリーダーシップ賞を
受賞いたしました。



SECURITY 50 2013



さらに高度で、上質なセキュリティへ。
世界が認めた高品質、WEBGATE HD-SDIシリーズ



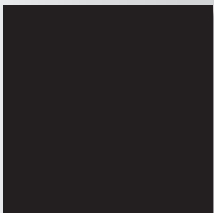
安全と安心はプライスレス



FLIR FCシリーズ S

極めて低価格 ネットワーク統合可能な固定型 赤外線サーマルカメラ

監視用赤外線サーマルカメラ FCシリーズ Sは、暗闇や悪天候の中で外部侵入者の脅威から施設を守ります。デジタルなし、アナログネットワークでコントロール及び操作が可能です。FCシリーズ Sは、320×240ピクセルモデルと、高解像度640×480ピクセルモデルからお選びいただけます。



肉眼での視界



赤外線サーマルカメラ



製品に関するお問い合わせ先:

フリーアシステムズジャパン株式会社

〒141-0021

東京都品川区上大崎2-13-17

目黒東急ビル5F

Tel.: 03-6721-6648

Fax.: 03-6721-7946

e-mail: info@flir.jp

www.flir.com

掲載されたイメージは説明目的で使用されてます。

目次

A&SJAPAN Jan/Feb. 2014
2014年1-2月号 No.38



表紙解説

WEBGATE HD-SDIシリーズ 4-5

キーマンインタビュー

ジェネテック社CEOピエール・ラズ氏 12-13

特集

SECURITY 50 14

連載

市場慧眼 よくわかるIPネットワーク 38

新連載 SMAhome 42-45

イベント・情報

ICE11 49

ロジテックINAソリューションズ 49

展示会、プライベートショー日程 48

導入事例

フリーアーシステムズ 50

新製品情報

アクシスコミュニケーションズ 52-53

AXSEED 55

BOSCH SECURITY SYSTEMS 55

レノボジャパン 51

VIVOTEK 54

新製品欄

CCTV、入退管理、その他 56

国内産業ニュース	6
海外産業ニュース	8、10
読者の声	60

広告主名(ABC順)	掲載ページ
アクシスコミュニケーションズ	3
BOSCH SECURITY SYSTEMS	11
フリーアシステムズジャパン	表二
ジャバテル	39、40、41
ジェネテック	33
MESSE FRANKFURT NEW ERA MEDIA	21、35、42、43
日本経済新聞社	表三
ソニー	7
サンシステムサプライ	9
店舗プランニング	表一、4-5、表四

次号案内

2014年3/4月号(3月3日発行予定)

特集

2014年の予測

製品特集

サーマルカメラ

個別市場

輸送機関

連載

市場慧眼、SMAhome

(誌面の都合上、変更になることがあります)

a&sJAPAN

©ASJ社 2014年 1-2月号 No.38

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

発行人 小森堅司 印刷 新日本印刷

a&sJAPANは、Messe Frankfurt New Era Media発行のa&s International、a&sAsiaをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権を特約して、発行するセキュリティ国際情報誌です。

ASJ社

Advanced Security Journal Corporation

東京都千代田区神田須田町1-7-1ウィン神田ビル10階 〒101-0041

電話：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

■広告に関するお問い合わせは

E-mail：komori@asj-corp.jp

■購読に関するお問い合わせは

E-mail：reader@asj-corp.jp

■記事情報提供に関するお問い合わせは

E-mail：info@asj-corp.jp

■DM代行サービスおよび電子メール配信サービス

当社では、企業の依頼によりDMまたは電子メールで情報をお届けすることがあります。

これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を当該企業には一切公開しておりません。

見るべき対象はどこですか？

薄暗い場所でも「きちんと見る」



この画像は実際の監視映像を表すものではありません。Axis各製品の詳細はwww.axis.comをご覧ください。



Axis独自のLightfinderテクノロジー搭載カメラは、照度の低い環境でも、鮮やかなカラー映像を実現します。

監視カメラを選ぶ際に「画質」は常に重要な点として挙げられますが、本当に重要なことはその画質をどのように活用するか、ではないでしょうか。Axisではお客様の業務が円滑になるよう、カメラ性能としての画質向上に注力しています。HDTVやLightfinder、ワイドダイナミックレンジなど、優れた画質を実現するAxis製品をぜひご活用ください。

www.axis.com/imageusability



Axisはネットワークビデオの世界的リーダーとして、たとえどのような状況で撮影してもお客様が真に有用となる映像を得られるよう、日夜努力を続けています。

Axisの映像監視で、一歩先を進みましょう。

AXIS[®]
COMMUNICATIONS

WEBGATEは、 3年連続のリーダーシップ賞、受賞

再び、HD-CCTVのマーケットリーダーであることを立証

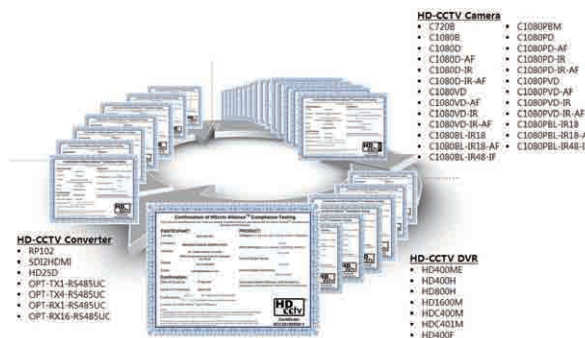
大明エンタープライズ、WEBGATE部門は、HDcctv協会から、コンプライアンスリーダーシップ賞を受賞しました。授賞式は、深圳で開催された中国セキュリティエキスポ(CPSE)中に行われました。この3年連続の受賞により、WEBGATEは、改めて、HD-CCTVマーケットにおけるリーディング会社であることを立証しました。HDcctv協会は、HD-SDI伝送技術に基づくHD-CCTVビデオ監視製品に対する国際的な規格協会です。

2009年に設立され、全世界で60以上のメンバー会社が協会に加盟しており、HDcctvの発展のために、活動しております。HDcctv協会の主要な役割の一つに、製品の検証があり、HDcctv規格に合致しているかどうかを検査し、その結果、認証を与えております。

10月、WEBGATEは、12機種のPoCカメラと、ボックス、屋内/屋外ドーム、

ビュレットタイプを含む11機種種のノンPoCカメラで、HDcctvの認証を取得しました。

ですから、2010年に、世界最初のHDcctvカメラ認証を取得後、現在まで、WEBGATEは、DVR、カメラ、コンバータ製品で、トータル、39認証を取得しています。この賞は、また、HD-CCTV市場が、WEBGATEのたゆまない製品開発や重要なシステム設置事例を広めてきた実績、2013年に開催したカスタマーセミナーの開催などを認めたことを意味しています。特に、最近発売のPoCカメラやDVRは、同軸ケーブルで、フルHDのビデオ伝送をサポートするだけでなく、PoC (Power over Coax) や CoC (Control over Coax) 機能もサポートしています。これは、HD-CCTV製品



開発の今後の方向性を示す大きな意味を持っています。世界のHD-CCTVのリーディング会社の将来像を実現していくために、DVRやカメラといったHD-CCTVシステムを構築する上で中心的な機器と同様、外部ストレージやリピーター、コンバータ、光ファイバー送信機、そして受信機など必要な機器の発売を拡大しています。そして、WEBGATEの名の下に、ブランド戦略を加速しています。

今日、ハイビジョン監視カメラの主流は、メガピクセルIPカメラですが、HD-CCTVソリューションは、簡単な設置とメンテナンスを武器に、市場シェアを広げつつあります。

今年、出版されたIMSリサーチによると、HD-CCTVは、2013年から大幅な成長を示し、2017年まで、64%の平均成長率が見込まれます。



【最近の導入事例】

工場用高品質HD-CCTV監視カメラ

工業設備用に最適な監視ビデオシステム

設置場所：韓国にある発電所、Korea Western Power(KOWEPO)、は発電市場を代表する企業であり、国内電力の約13%を供給しています。そのビジネス(プラント及び建設)は、テアン市、ピョンテク市、インチョン市、クンサン市の6ヶ所にあります。KOWEPOは韓国西部に電力供給している企業のひとつであり、設備はセキュリティの観点から、厳重な監視が求められています。

要求：既存のアナログ監視システムが劣化したため、最近メガピクセルIPカメラに代替をしていました。しかし、そのシステムにフレームロスや録画遅延などが起きていました。そこで、遅延なくフルフレームで、スムーズなPTZコントロールができるシステムを求められていました。新システムでは、フェンスに赤外線、マイクロ波、テンションセンサー(糸などの張力を検出する)を設置し、アラーム信号を受信することができ、中央監視室のモニターに、そのポップアップ画像を映しだします。また、新監視システムは、6ヶ月以上録画データを保持し続ける必要があります。さらに既存のIPカメラと連動し、効果的な侵入監視のためのビデオ分析機能を導入しました。

結果：KOWEPOのニーズを満たすため、WEBGATEはHD-CCTVソリューションとして、遅延なしの30FPSフルHDビデオを提案し、採用されました。センサー



から来るアラーム信号は、20倍HD-SDI PTZ(C1080PT-Z20)に送られ、そしてRS485ラインを通じ、中央監視室に届けられます。8ch HD DVR(HD800H)は、このアラームイベントを受け取り、CMS(コントロールセンター)へコマンドを送り、モニターにアラームビデオをポップアップします。ビデオ伝送には光ファイバーソリューション、PTZコントロールにはRS485が採用されました。これは長距離伝送が可能であるからです。また、WEBGATEの外部ストレージ(NVS04R)を6ヶ月のデータ保存用に設置しました。さらに、HD DVRのビデオデータはビデオ分析サーバーに配信され、自動的に侵入者を感知します。WEBGATEのNVR(NVS04S)と既存IPカメラとの互換性テストが、HD-CCTVとIPシステムとの合体ビデオ監視ソリューションを可能にするために行われました。他の発電所でも、さらなるHD-CCTVの設置に向けて、現在調査を行っているところです。

大明リゾート Geoje (巨済島)にHD-CCTVを設置

高級リゾート施設にフルHD監視システム

設置ロケーション：地下4階地上28階516の客室とオーシャンベイ(ウオーターパーク)、8つの大会議室、レストラン、結婚式場と多くの関連施設をもつホテルが、6月13日オープンをしました。家族用の部屋からスイートルームまで、すべての部屋は、海に面しており、どこからでも、素晴らしい景色を見ることができます。

Geoja橋の完成により、プサンからの交通もより便利になり、言うまでもなく、オーシャンベイは、韓国南部における最大のウオーターパークになってい



ます。大明リゾートGeojeはGeoje(巨済島)地区におけるランドマークとして、期待されています。

要求：HD-SDI伝送技術に基づく、WEBGATE HD-CCTVソリューションは、すでに、雪岳 Delpino&Golf

ResortやMVLホテル(イルサン)によって、大変良い評価を獲得しています。

大明リゾートGeojeは、リゾート設計の最初の段階からWEBGATE HD-CCTVシステムの採用を考えていたということです。大明リゾートGeojeのセキュリティ担当者は、すべてのカメラがフレーム落ち無しにフルフレームのビデオ機能を持つこと、さらに、駐車場入り口やロビーのような重要な場所には、30フレームの一貫した録画が出来ることも要求されました。また、施設管理者からは、必要なビデオを自分たちの事務所でモニタリングできることも要求の一つでした。

結果：顧客の要求にしたがい、WEBGATEは、48セットの8ch HD DVRとボックス、ドーム、PTZからなる360個以上のカメラそして、52セットのモニターをセキュリティソリューションとして納入しました。HD-CCTVビデオの最高品質を保証するために、ビデオ伝送として、光ファイバーを採用しました。結果として、WEBGATEは、ビデオ画質の劣化やノイズ無しに、鮮明なビデオ画像を実現することができました。また、すべてのDVRは、ローカルなネットワークに接続されたので、管理者は、簡単に、必要な場所の監視が可能になりました。

ルクレ、アロバビュー オフィシャルパートナー制度を設立

日本で数多くの映像監視システムの導入実績を誇るルクレは、監視カメラ・ソフトウェアのアロバビューを活用して、中小規模監視カメラ市場への新規参入を目指す企業を支援する。これは、これまで映像監視システムと接点のなかった企業を対象にした「アロバビュー オフィシャルパートナー制度」を新設し、映像監視システムの設置に関する必要な知識の習得を支援するという内容。具体的には、電気工事店や電気施工会社などを対象にネットワークカメラやネットワーク機器の選択と設定そして電源関係などに対応できる能力を身につけ、監視カメラビジネスへ参入できる支援を行う。

この制度の中核を担っているのがVMSと呼ばれる監視カメラ・ソフトウェア「アロバビュー」で、既に鉄道や官公庁施設など数多くの実績ある同ソフトウェアの無償版(アロバビュー フリー版)を使って、安くそして簡単にネットワークカメラ・システムを構築することができる。

この背景には幾つかの要因がある。まず、監視カメラ市場におけるアナログカメラとネットワークカメラの価格差が縮まったことだ。高解像度への要望の高まりにより、HD/フルHDネットワークカメラの市場規模が、急速に拡大している。テクノ・システム・リサーチ社の調査では2012年に245億5100万円と見られる市場が、2016年には483億3000万円まで拡大すると予測されている。しかも、この市場の大半が16台以下の小規模案件であり、そのため案件数もさらに大幅に増加するとされている。

次に、これまで大規模案件を中心に導入されてきたアロバビューが、今後中小規模案件の市場が広がることを見据えて、2013年3月にカメラ10台まで無料で利用できる「アロバビュー フリー版」の提供を開始している。そして、既に300社以上の企業

からの申し込みがあった。それと同時に、設置経験の少ない企業に対する支援活動も増加してきたことから、今回のアロバビュー オフィシャルパートナー制度の設立となった。

【アロバビュー オフィシャルパートナー制度のメリット】

1. 監視カメラビジネスに関する情報提供

・専用サイトでの情報提供

パートナー専用サイトでアロバビューのインストールやカメラ設定などの技術情報を提供。また、同サイト上でFAQやフォーラムによるトラブルシューティングも可能。

・セミナー開催

アロバビューの技術サポートや周辺機器に関する情報を得ることができるセミナーを2014年1月より定期的に開催。なお、日程は、随時ホームページで告知する。

2. 「アロバビュー フリー版」の継続的な取り扱い

フリー版は通常1法人1ライセンスのみの提供となるが、オフィシャルパートナーへ登録することで、ルクレよりソフトウェア・ライセンス数の制限なく、案件ごとにフリー版の提供を受けることができる。これにより、複数のエンドユーザーに対し「価格競争力の高い」監視カメラシステムのビジネス展開が可能となる。

【今後の目標】

ルクレでは、2014年オフィシャルパートナー数200社の登録を目標とし、全国に「アロバビュー」発信拠点を続々と設置する考えだ。これにより、今後広がる中小規模案件での導入を全国で進め、アロバビューの利用率の拡大を目指す。



iOSコンソーシアム、iOSデバイスにおけるBYOD ガイドラインを公開

一般社団法人iOSコンソーシアムは、iPhoneやiPadなどのiOSデバイスによる「BYOD(Bring Your Own Device)」を検討している法人や組織が、安全かつ効率的なBYODを導入する手助けとなることを目的とした『iOSデバイスにおけるBYODガイドライン』を公開する。

個人所有のデバイスを業務に使用する「BYOD」に対する関心が高まっている一方で、セキュリティや管理、運用や労務、法務など様々な課題への対策が整理されず、本格的な導入に至ら

ない企業も多いと考えられる。本ガイドラインでは、「iOS デバイスにおけるBYOD」を安全かつ効率的に導入・運用するために必要な手順やプロセスについて詳細に説明している。

BYOD を導入する上で必要とされるiOS デバイスの技術的な管理策はもちろん、体制づくりやポリシー、プロセスの整備や導入を進めていく上での注意事項など準備・運用についても解説している。詳細は下記URLを参照。

https://ios.or.jp/uploaded_files/news/114.pdf

Exmor™ CMOSセンサー搭載 カラーカメラモジュール FCB-HDシリーズ

NEW



1/2.8型 Exmor CMOS(約238万画素)

Full HDモデル(1080p/60)

FCB-EV7500 光学30倍

FCB-EV7100 光学10倍

1/3型 Exmor CMOS (約137万画素)

HDモデル(720p/60)

FCB-EV5500 光学30倍

FCB-EVシリーズは、HDビデオフォーマット対応の高精細カラーカメラモジュールです。Full HD(1080p/60)モデル・光学10倍モデルも加わり、新機能のDefog、新方式のワイドダイナミックレンジ機能を搭載し、視認性を大幅に向上、幅広いアプリケーションでお使いいただけます。

【主な特長・機能】

●Exmor CMOS搭載

・1/2.8型(約238万画素) :

FCB-EV7500、FCB-EV7100

・1/3型(約137万画素) :

FCB-EV5500

●映像信号方式

FCB-EV7500 FCB-EV7100	FCB-EV5500
Full HD: 1080p/59.94, 1080p/50, 1080p/29.97, 1080p/25, 1080i/59.94, 1080i/50	—
HD : 720p/59.94, 720p/50, 720p/29.97, 720p/25	
SD : NTSC/PAL	

●Wide-D

暗い被写体から明るい被写体までのワイドダイナミックレンジの状況下でもきれいに撮影ができます。Wide-D機能を自動切り替えることで、逆光補正した最適な映像が得られます。

●Visibility Enhancer (VE)

カメラ画像の暗い部分を明るくし、輝度とコントラストを自動調整します。

●Defog

被写体に霧がかかり、コントラストが低くなったときにDefogモードを使用することで被写体が見やすくなります。

OFF時(※イメージ)



ON時(※イメージ)



●ノイズリダクション(3D+2D)

低照度時に発生する、固定パターンノイズやランダムノイズ等を除去し、より鮮明な映像取得を可能にします。

●プライバシーゾーンマスキング

●モーションディテクション

●イメージスタビライザー(手ブレ補正)

FCB-EV7500、FCB-EV5500

●ピクチャーエフェクト

左右反転(ミラー) / 上下反転(E-Flip)、フリーズ、Neg.Art(ネガポジ反転)、Black White(白黒映像)

●Auto ICR

●AE(自動露光モード)

●スローAE レスポンス

●ホワイトバランス

Auto WB, ATW, Indoor, Outdoor (fix/auto), Sodium Vapor Lamp (fix/auto/Outdoor Auto), One Push WB, Manual WB

●デジタルズーム12倍

●同期方式 : 内部同期

●カメラ制御インターフェース

VISCA protocol(CMOS 5V レベル)

※Exmorはソニー株式会社の商標です。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

ソニー株式会社

イメージング・プロダクツ&ソリューションセクター
デジタルイメージング事業本部

ビジュアルセキュリティ・ソリューション事業部
神奈川県厚木市旭町4-14-1 〒243-0014

Tel. 050-3809-2973

<http://www.sony.jp/ISPJ/>



IHS社、2014年映像監視市場の10大予測を発表

IHS社は、第5回となる映像監視市場の10大予測を発表した。今年を業界にとって刺激的な年になることを予測している。

1. 映像監視市場は、2014年も輝ける市場

IHS社は10年以上の映像監視装置市場を研究してきた。この間ほとんどの毎年、市場は二桁成長を遂げ、急速に拡大している。今年2014年も例外ではないだろう。IHS社は、世界市場は12%以上で成長すると予測している。世界市場の中では、IHSは急成長している製品分野として固定ドーム、全方位ネットワークカメラ、市場分野では都市監視とユーティリティ/エネルギー分野を挙げている。

2. ビッグデータは、クラウド型映像監視とソーシャルメディア解析に

カメラを備えてインターネットに接続できるスマートフォンの普及は、クラウド型データ収集への流れを最初に導いた。その代表的な現象がボストンマラソン爆破事件で、これ以降2013年からの流れが始まった。

IHS社は、警察力増強がますます望まれるようになるにつれ、クラウド型映像監視データを管理する必要がでてくると予測している。警察などの機関は特にソーシャルメディアの監視を使用して迅速に反応するだろう。これにより、データ解析および操作性の課題を生むことになるだろう。これらの課題を解決し警察の事件への対応を向上させるソリューションの作成する新しい機会が、システム構築者やソフトウェアベンダに供給されることになる。

3. 中国でクラウドベースの映像監視市場が動く

中国では、通信インフラが成熟してきたこともあり、クラウドに対する関心がますます高まってきている。ネットワーク帯域幅が向上し、ネットワーク製品の価格が低下したように、クラウドベースの映像監視ソリューションは、多くの供給業者からの注目を集めている。クラウドベースのソリューションは強制的な選択ではないものの、市街地監視用で大規模な需要を活用する絶好の機会となりそうだ。

高まる関心と拡大する顧客基盤により、クラウドベースの映像監視ソリューションは、それが顧客に提供しているアプリケーションにおいて生まれた価値によって定義されると、IHS社では予測している。中国の10億人以上の潜在的なユーザに

とって、製品とセキュリティ機能とによる適切な構成が成功する組み合わせとなるだろう。

4. サーマルカメラ、商業市場で好評を博する

IHS社は、映像監視製品市場が今後数年間で平均販売価格の最大低下を迎え、その後の数年間は非冷却赤外線カメラの時代になると予測している。商用セキュリティ業界へのサーマルカメラ・ユニットの出荷数は、製品がまだ一般化していないことを示しているものの、競争の激化と新製品や新エンドユーザの出現により、2014年にこの市場は活発化すると思われる。

5. 全体画像を提供全方位カメラ

2014年に世界市場での出荷台数が前年比60%以上増加する映像監視製品は、全方位カメラだろうとIHS社は予測している。特に小売業や空港そしてカジノなど、広範な屋内区域を監視する個別市場で市場シェアを獲得すると予測している。

6. PoE電力の問題

ネットワーク映像監視への移行が継続している中、注目を集めている点は、それを支えているネットワーク基盤と、重要な要素となっている電力である。PoE規格や製品に関する最近の開発で技術が進歩し、セキュリティ管理者は現実的な選択を行うことになる。

セキュリティカメラメーカーがPoE+規格準拠の低出力カメラのポートフォリオを拡大し開発することを、IHS社は期待感をもって予測している。また、イーサネットとPoEの伝送距離の制限を克服する技術も、一般市場で受け入れられるようになって見ている。

7. ライブ映像とモバイルアクセスでは表示時間が異なるか？

2012年12月14日に発生したサンディフック小学校銃乱射事件により、安全に事故が発生した場合、施設のセキュリティ管理者は警察当局とライブ映像を共有すべきかについて、改めて焦点が浮き彫りになった。技術は既に確立している。しかし、依然としてコスト問題が未解決で、市場への浸透が限られていた。ところが、コストが下落してきたことと、サンディフック小学校銃乱射事件以後の物理的および人的資産の保護に関わることで、2014年には、警察当局への映像監視のライブストリーミングが当たり前になる可能性がある。

次ページに続く



- exacqVisionEDGE サーバ
- ・カメラ上で動作
 - ・4GB ~ 128GB
 - ・カメラに依存



- exacqVisionUSB モジュール
- ・exacqVision サーバ用
 - ・IO、オーディオ拡張



- exacqVisionS- シリーズ
- ・EDGE 用アーカイバ
 - ・4TB~32TB
 - ・Linux



- exacqVisionLC- シリーズサーバ
- ・Hybrid/IP
 - ・500GB~4TB
 - ・Linux



- exacqMobile
- ・Android 端末、iPhone/iPad
 - ・無償アプリ



- exacqVision 専用ジョイスティック



All in exacqVision



新製品：Enterprise Server Manager

exacqVision EL-Series



小規模向

- exacqVisionEL- シリーズサーバ
- ・Hybrid/IP
 - ・アナログ 16 台 /IP16 台
 - ・500GB~4TB
 - ・Linux

exacqVision A-Series



中規模向

- exacqVisionA- シリーズサーバ
- ・Hybrid/IP
 - ・アナログ 64 台 /IP64 台
 - ・1TB~14TB
 - ・Windows/Linux

exacqVision Z-Series



大規模向

- exacqVisionZ- シリーズサーバ
- ・Hybrid/IP
 - ・アナログ 64 台 /IP128 台
 - ・4TB~80TB
 - ・Windows/Linux



exacqVision 製品についてのお問い合わせはこちら

exacqVision 国内総代理店 サンシステムサプライ株式会社
 〒167-0021 東京都杉並区井草 3-32-2 営業技術部
 TEL : 03-3397-5241 E-mail : info@sunss.co.jp

8. 映像内容解析市場、発展に向かう分岐点を突破

映像監視機器ベンダは、自社製品にローエンドの映像内容解析(VCA)アプリケーションを内蔵し、自由機能として提供している。そこに問題が提起されている。映像解析市場が存続し続けるのか、それとも全てのアプリケーションが無料提供され続けるのか？

市場がこの分岐点に到達すると、ベンダが基本アルゴリズムを有料化することは明白になる。そうすると、2014年に、VCAをプレインストールした映像監視機器市場は、エンドユーザが高信頼性の解析を求めるアプリケーションに市場の有望性が存続することになる。

9. 2014年に顕在化しそうな監視カメラ関連の動き

IHS社の新たな調査によると、2013年に世界市場に出荷された70%以上のネットワークカメラは、単方向または多方向の音声機能を持っている。ただし、セキュリティシステム構築者に共通している点は、音声機能をほとんど使用していないことである。それにもかかわらず、内蔵の音声解析と音源定位へ

の関心の高まりで、市場浸透が上昇する可能性がある。

既に利用可能な数多くの技術と絶え間ない製品の差別化そしてシステム効率化の拡大で、IHSは2014年に市場が映像監視システムの音声機能を重視すると予測している。

10. 映像監視ベンダ、新しい市場に参入

物理セキュリティ市場は統合されておらず、少なくとも近未来に実現することもないだろう。しかし、映像監視ベンダは、市場の速い成長を遂げていた年から得られてきた利益を投資して新たな市場を見て始めている。

マイルストーン・システムズ社やアクシスコミュニケーションズ社、また2013年に開始したハイキビジョン社とダフア社からの新しいサービスなどに続いて、IHS社は、2014年もこの潮流すなわち多くの新製品や、セキュリティ企業に的を絞ったネットワークからの新サービスが続くと予想し、新たな収益を各社のポートフォリオに流入させる方策を求めていくと予測している。

アビジロン社、ビデオIQ社を買収

HD監視ソリューションを提供する企業アビジロン・コーポレーション(カナダ、ブリティッシュコロンビア州、バンクーバー)は、映像解析会社ビデオIQ社(米国、マサチューセッツ州、ビレリカ)を32百万ドルの現金対価で買収する正式契約締結を発表した。一括処理は2014年1月に完了する予定。

ビデオIQ社は2006年設立で、セキュリティおよびビジネス・インテリジェンス・アプリケーション用のリアルタイム・

インテリジェント映像解析ソリューションの提供に注力してきた。また同社は、23の取得済および出願中の特許と、映像解析的財産の開発ポートフォリオを持っている。さらに、約30名の従業員と幅広い産業における数多くの優良な顧客基盤を持ち、その熟練した経験豊富な労働力は、アビジロン社の成長を拡張するために効果的と見られている。

IP映像監視市場、2018年まで年平均成長率25%の見通し

TechSci研究所が最近発表した報告書「2018年世界映像監視市場予測」では、IP/ネットワーク映像監視市場は2013年から2018年の5年間に年平均約25%で成長すると予測している。同報告書は世界映像監視市場の今後の成長性を評価し、統計から見た市場構造と市場動向、市場規模に関する情報を提供し、映像監視市場の予測と需要予測が記述されている。また同報告書は最先端の市場情報を提供すること、健全な投資評価を下すこと、意思決定者を支援することを目的に作成されている。

2012年のアナログ映像監視市場は、北米およびEMEAが牽引し、アジアで最も高い収入を発生させ、過半数の市場シェア

を占めていた。一方、IP/ネットワークベースの映像監視市場は、北米とEMEA地域の需要が大きかった。しかし、2014年には、IP/ネットワーク映像監視システムは、アナログ映像監視システムを上回ると予想している。なお、個別市場別では防衛、公共機関および施設、そして商業施設分野が続くと見ている。

報告書はまた、IP/ネットワーク監視システムの台頭により、2014年から市場での価格単価は増加し、IPネットワークシステムへの需要の緩やかな移行が2018年までの5年間続くとしている。

**BOSCH**

Invented for life

2014年、Boschネットワークカメラの ラインナップが大幅に拡大!

Bosch Security Systemsは、2014年より、ネットワークカメラのラインナップを大幅に拡充します。エントリーモデルとしてコンパクトなIP 2000シリーズ4機種を提供。また、普及型のIP 5000シリーズは、赤外線照明内蔵のIP Bullet 5000 HDをはじめ、FLEXIDOME IP micro 5000の6機種、FLEXIDOME IP indoor 5000の3機種、FLEXIDOME IP outdoor 5000の3機種を一挙にリリース。さらに、上記のエントリーモデル、普及型モデルには、Bosch独自の映像化制御技術であるインテリジェントダイナミックノイズリダクション機能を内蔵。映像を劣化させることなく、録画容量を最大30%程度削減することが可能です。

●Boschネットワークカメラ IP 5000シリーズ



● Boschセキュリティ製品に関するお問い合わせ先

Bosch Security Systems

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂9F

TEL. 03-5485-4427 sales@boschsecurity-jp.net www.boschsecurity-jp.net

ジェネテック社CEOピエール・ラズ氏、2014年の事業展開を語る。

ビジョンは監視カメラと入退管理システムとの統合



問 貴社は現在日本市場でどのような事業展開をしているのか。

ラズ氏：2006年以降、ジェネテック社の世界市場戦略における日本市場の重要性は非常に高まっている。当社は顧客をサポートするために、当社の存在感を日本で高めていく方針だ。2013年には東京にオフィスを開設しスタッフも増強した。そしてジャバテル社、加賀ソルネット社そしてアメリカン・エンジニアリング社をはじめとする日本のパートナー各社と強力な関係を確立してきている。

日本市場の特殊性を考慮すると、さら

なる投資と、そして日本市場に我々のサービスを提供するために、この市場でアクセス・コントロール(入退管理)システムやカメラを提供している主要サプライヤへの継続的な確約が重要だと考えている。

当社はサービスを提供している日本の顧客を誇りにしている。そして、顧客の満足を満たすために、当社の技術と卓越した革新性を今後も提供し続ける。

問 市場に提供している技術や革新性について説明していただきたい。

ラズ氏：ジェネテック社のセキュリティ・プラットフォームであるSecurity Center(SC)は複数のセキュリティ・システムをシームレスに統合し、ユーザに使いやすい一本化された操作画面を提供している。入退管理システム・イベントを映像データと結びつけることで、これまで無関係だったデータに意味を持たせることを可能にし、物理セキュリティ・データから顧客のビジネスに重要な何かを導き出すことも可能にする。これは斬新で刺激的なことだと考える。

例えば、データ統合を使って設備内にいる人間の位置情報を確認することや、人の動きをパターン化して様々な状況の中でどのように人が行動するかを予測することも可能となる。

リアルタイムの映像装置や読取カード、FOB打刻やユーザ・ログインまた携帯電話の検知といった入退管理の行動を意味付けすることにより、どのように習慣的に行動するかを理解することや、幾つもの要素をモデリングすることで、当社はユーザに環境や正確な状況の情報に対して、これまで以上の判断力を提供することができる。

これを可能にするためには、映像データとセンサ・データを統合することがカギとなる。単なる統合はデータを引き出すだけで、全体的な状況を示す情報を抽出するストリームと関連づけることはできない。

簡単な例を挙げると、入退管理システムのイベントとそのドアを映している監視カメラのライブ映像を比べることで、そのイベントが正しかったのか間違っていたのかを判断することができる。入室用カードを読取機にかざした行動を監視カメラのライブ映像で再確認することで、管理担当者は即座に状況に対応し許可を与えることを可能にし、高効率のシステムを構築することができる。

問 このような貴社の計画で、技術パートナーはどのような役割を担うのか。

ラズ氏：ジェネテック社はまずソフトウェア開発会社であり、当社のオープン・

プラットフォーム理念に基づいてベンチマークをセットし、これにより日本の顧客にはそれぞれの要求に最適のハードウェアを選ぶことを可能にする選択の自由を提供している。

さらに、日本市場でキャノンやパナソニック、ソニーやEMC JAPAN社といった有力企業と技術協力を確立したことは、当社にとって光栄であるとともに、こうしたパートナー企業の北米市場等での事業展開にへのサポートを提供している。

当社の技術者は日本の技術パートナーと知識を分かち合い、そのソリューションとのより深い統合に対して確約する姿勢を持っている。この深いパートナーシップは、当社が提供するSC上で意味のあるものとされたデータが顧客に対して最適の状況認識と知識を供給することを保証している。

しかし、ジェネテック社のソリューションでは、同一のデータベースと管理体制を使いながら統一した手法で、これら複数のシステムをシームレスに1システムとして動作させている。

当社の戦略は、顧客の方々に重要な価値を提示することと考えている。具体的には、極めて簡単な操作とより少ない投資、手間のかからない保守と高い可視性で、より優れた状況把握が得られる環境を提供することだ。

従来の統合化と比較して、貴社が提供する優位性は何か？

ラズ氏：監視カメラと入退管理システムの統合に対するマーケットの関心は国境を越えて見ることができる。国ごとに興味の高さは違うものの、顧客の興味は世界中で高まってきていると見ている。

監視カメラと入退管理を一本化するこれまでの様々な試みでは、アプリケーションごとに別々のデータベースやサーバ、そしてそれらの管理が必要だった。

ASJ



GDSF JAPAN2014 は、セキュリティの最新技術と市場動向を知ることができるイベントです。その名の通り、世界のセキュリティ企業が、各社の最新技術や製品を披露いたします。今年、スケールアップした GDSF JAPAN2014 で最新セキュリティ産業に触れることができます。詳細は、8月上旬に下記 URL で公開予定です。

http://www.asj-corp.jp/gdsf_japan2014/

GDSF JAPAN 2014 (Global Digital Security Japan) 開催概要

日時 2014年9月25日 13:00 - 18:00
9月26日 10:00 - 17:00
会場 東京秋葉原 UDX ギャラリー NEXT
内容 最新セキュリティ機器およびシステムに関するセミナーと展示
聴講 2014年8月上旬より下記 URL で受付開始
http://www.asj-corp.jp/gdsf_japan2014/audience/form.html

お問い合わせは下記までどうぞ

ASJ 合同会社 GDSF JAPAN 2014 事務局

Eメール：gdsf2014@asj-corp.jp TEL：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

集中と素早い対応



全世界のセキュリティ市場を牽引するSecurity 50企業が2012年に製造したセキュリティ機器は、全体の約68%を占める。Security 50企業の平均成長率は12.3%に達し、消費者市場を席卷している。しかし、昨今の景気の先行き不透明感は、市場をリードする多くのセキュリティ機器サプライヤに負の影響を及ぼしている。セキュリティ機器が既に定着した国々は、まだ景気回復の途上にある。新興市場の成長率は堅調だが、それでも大幅な損失を埋め合わせることはできていない。その一方で、IP関連技術の成熟と中国メーカーの急速な業績向上に伴い、世界のセキュリティ機器市場では以前にも増して激しい競争が繰り広げられてきた。今後、各社は低成長と政府関連需要の

減少という厳しい現実と向き合わなければならない。

こうした苦難の時期にあっても逆境に打ち勝った企業もあり、数社は2012年に好調な売り上げを達成した。特定業種に的を絞り、特別仕様のソリューションを生み出し、顧客のニーズに応じてきたことが好結果をもたらした。

本誌は、困難を切り抜けるべく全力を尽くした業界の先導各社に敬意を表し、2013年のSecurity 50を発表する。

ランキング対象企業

- 映像監視と入退管理、侵入検知と複数の製品分野を含む電子セキュリティ機器、システム・プロバイダ
- 独自の製品、ブランド、ソリューションを有するセキュリティ企業あるいはメーカー
- セキュリティ関連の上場企業および株式非公開企業
- 公認会計士または会計事務所の監査済みで保証付きの2011年度、2012年度の財務諸表を提出いただいた企業
- 除外対象は、ディストリビュータとシステム・インテグレータ、再販業者と販売業者、工事会社と警備会社、情報セキュリティ企業と防災事業者、その他上記に関連する収益

ランキングについて

世界のメーカーを、製品の売上高のみによって順位付けした。独占的なメーカーからエンドツーエンドでソリューションを提供するメーカーまで、様々な企業がノミネートされている。各社の順位にこだわらず、成功をもたらした根本的な原因に注目していただきました。

注:本誌は、個々の企業が提出した財務情報について一切の責任を負わない。比較の公平を期すため、米ドル以外の通貨については、年度の中間にあたる2013年7月26日のXE.comの為替レートで換算した。そのため、本誌が作成した財務情報資料は、自社の販売実績を告知したいという参加企業の意思に基づく公平なリストである。最後に各社のご協力に感謝の意を表する。

Acknowledgements



The Open Platform Company



セキュリティ機器業界に 依然として負の影響を及ぼす マクロ経済の不確実性

Security 50掲載企業は、2012年の全世界のセキュリティ機器市場の売上高の約68%を占める。しかし、2012年の平均成長率12.3%は、先行きの明るさを示すものとは思われない。これは、不確実なマクロ経済の見通しが大多数の主要セキュリティ機器供給企業に今なお影響していることを物語っている。

それでも、Security 50掲載企業は、2012年の世界市場で極めて重要な役割を果たした。

Security 50掲載企業は、全世界のセキュリティ機器市場の約68%、映像監視市場の40%超を占めた。Security 50掲載企業の2012年の製品売上高は147億米ドルに達し、うち50億ドル超を映像監視機器が占めている。Security 50掲載企業の22社が2012年に1億ドル超の売上高を達成している。

これら22社のうち、ハネウェル・セキュリティ社、ボッシュ・セキュリティ・システムズ社、サフラン社、ハイキビジョン・デジタル・テクノロジー社の売上高は10億ドルの大台に達している。ハイキビジョン社が2012年に10億ドルという記録的な売上高を達成したことは注目に値する。

2012年のHIS社報告書によると、全世界のセキュリティ製品の市場規模は215億ドルに上り、映像監視が119億ドルを占めている。以下、入退管理

“ Security 50掲載企業は、2012年の全世界のセキュリティ機器市場の約68%を占める。 ”

(29億ドル、13.6%)、侵入検知(26億ドル、12.1%)、境界監視(3億5,060万ドル、1.6%)、入室管理(37億ドル、17.1%)と続く。地域別では、NCSA(北中南米)でセキュリティ機器とサービスの41%を占める。次いでアジアが330億ドル、EMEA(欧州・中東・アフリカ)全体で290億ドルだ。さらに、同報告書では、APAC(アジア太平洋)地域での2012年のセキュリティ機器の成長率はアジアが13.3%と高く、一方、NMSAが3.8%、EMEAが4.2%だった。

2012年は緩やかな成長

Security 50掲載企業の2012年の平均成長率は12.3%で、2011年の14%より低下した。この数字は、業界専門家達が2012年の予測として挙げた成長率15%よりも低い。成長が鈍化したことで、Security 50のうち27社が、2012年から痛手を被り始めた。本誌調査によると、

“ 当社は急速に成長し、全世界のセキュリティ市場を牽引する地位に達した。当社は常に市場要求の一步先を行き、世界中の顧客の要望に敏感であり続ける。 ”

ハイキビジョン・デジタル・テクノロジー社
社長ヤンツォン・フウ氏

”

2012年の売上の落ち込みが最も大きかったのは、欧州市場シェアが高いか、公共部門と政府部門への売上依存度が高い企業だった。

MOBOTIX社は、「特に欧州の債務危機の影響が大きかった」と財務報告書に記している。「欧州のほぼ全ての国で過去数四半期にわたって見られたマクロ経済の低成長率は、現在に至ってさらに低くなっており、短期ないし中期的に見て、景気後退傾向が継続する確率はきわめて高いと思われる」。

Security 50掲載企業各社に見られる成長鈍化の主要因は、世界各地の市場での競争の激化と、中東諸国やブラジル、インドやタイ、インドネシアや中国など新興国の「緩やかな」成長であり、中欧や東欧の先進国と米国における景気回復の遅れがさらに成長を妨げている。特に中東では、政治と経済の不安定さが成長の阻害要因になっている。

「成熟市場は、1年の大半、需要の伸び悩みがはっきりと現れ、南欧の金融問題や厳しい緊縮財政政策、西欧の深刻な景気低迷の影響を受けた」とアッサ・アプロイ社は語る。

シナティクス・グループのシナティクス・



革新と信頼性の向上に精力的に取り組む当社は、堅実な成長を達成するだけでなく、様々な国際的な賞を受賞して評価を高め、革新的な世界水準の製品開発を確信を持って推進している。当社は、将来を見据え、顧客のニーズに献身的に応え続け、安心でよりよい暮らしを実現していく。

VIVOTEK社取締役副社長スティーブ・マ氏

ネットワーク・システムズ社も、中東地域ではある程度の成長が見られたが、石油ガス部門以外は予想を下回る伸びになったとコメントしている。

減少し続ける政府支出

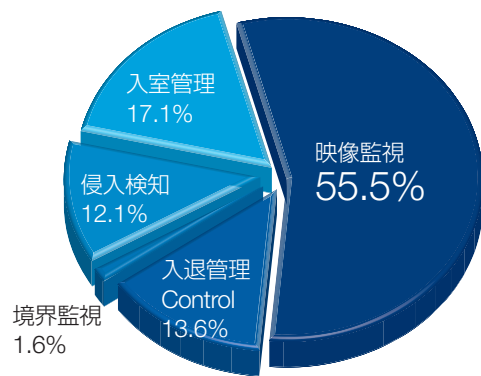
2012年、Security 50掲載企業の業績は、世界経済の不安定感の多大な影響を反映したものになった。これは、「投資水準の低下、政府支出水準または優先順

位の変動、政府予算の規模と有無、消費者と供給企業の信用取引の利用、消費者の購買意欲、その他マクロ経済の諸要因の低下や減少に繋がり、政府支出、法人顧客や一般消費者の支出動向に影響を及ぼす」とフリーアシステムズ社は営業報告書に記している。同社は、2012年の販売実績は米国および中東政府機関の支出減少の影響を受け、ユーロ圏の危機が追い打ちをかける結果になったとしている。

タイコ・インタナショナル社も、政府顧客および法人顧客が予算の制約を受け、これが需要の低減に繋がったとしている。

公共部門の支出が減少すれば、セキュリティ機器業界は厳しい試練を受けることになる。この傾向は、2012年に一段と明確になった。

2012年の全世界のセキュリティ製品市場



全世界のセキュリティ製品市場規模: 215億ドル

- ・映像監視 119億ドル、55.5%
- ・入室管理 29億ドル、13.6%
- ・侵入検知 37億ドル、17.1%
- ・境界監視 3億5,060万ドル、1.6%
- ・入退管理 Control 26億ドル、12.1%

出典: IMSリサーチ社 (IHSグループ)

“ マイルストーン社とパートナー企業にとって、2013年は、様々なイノベーションを実現した実り多い年だった。当社は、一連の組み込み済み機器であるマイルストーン・ハスキ、パートナー企業に定常的な収益の機会をもたらすオンラインサービス「カスタマ・ダッシュボード」を市場に投入し、マルチ・プラットフォームVMSパートナー・ソリューション、マイルストーン・アーカスをリリースした。

マイルストーン・システムズ社
CEO兼社長ラズ・シンガード氏



緩やかな発展段階に入ったIP映像監視

IP映像監視の成長は新規導入する設備数に左右されることから、新興国に見られる成長の停滞は、IP映像監視機器メーカー、プロバイダの成長率を鈍化させた。IP映像監視業界にとって明るい材料の一つは、途上国における改造案件から生まれる需要だ。しかし、旧式のアナログシステムからIPシステムに移行するエンドユーザの割合は、これまでのところ期待を上回るものではない。

IP映像監視は依然として好調ではあるが、売上の伸びはアクシス・コミュニケーションズ社、MOBOTIX社、マイルストーン・システムズ社に見られるように、先細りしつつある。アクシス・コミュニケーションズ社の成長率は、2010年が28.7%、2011年が22.9%、そして2012

年は17%にとどまった。

VMSプロバイダのマイルストーン・システムズ社は、2010年に成長率55.8%を記録したものの、2011年には22.5%、2012年には19.4%に低下した。また、VIVOTEK社は2010年の成長率が57.5%、2011年は62.1%であったが、2012年には20.7%と大きく後退した。

IPプロバイダのうち、アビジロン社だけが比較的高い成長段階を維持した。

2012年の売り上げの伸びは67%で、2011年は86%、2010年は91.2%だった。

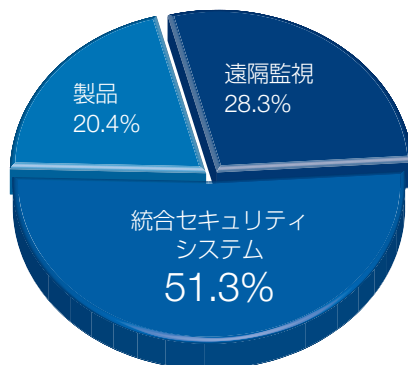
こうした成長の鈍化の要因には、世界経済が及ぼす無数の影響などが含まれるが、主要IPセキュリティ・プロバイダは、今後数年間、高い利益幅を確保しつつ、20%を超える年間売上の伸びを維持しなければならないという難題に直面することになる。

熾烈な競争

IP映像監視の成熟は、機器価格の低下という結果をもたらしてきた。一方、中国メーカーは、品質を向上させたコスト効率の高い製品を世界に向けて出荷しており、すでに飽和状態にある市場の競争をさらに激化させている。

ハイキビジョン社は、2011年と2012年のSecurity 50ランキングで5位に入ったが、2013年は、売上11億ドルで4位にランクアップした。ダフア・テクノロジー社は2011年、2012年に11位であったが、2013年は9位にランクアップした。ダリ・テクノロジー社も48位から42位へと順位を上げた。中国メーカーの台頭は、台湾、韓国のアジア企業に影響を及ぼすようになってきた。中国は、価格以外の面でも、より多くの非アジア

2012年の全世界のセキュリティ・エンドユーザ市場



全世界のセキュリティ機器・サービス市場規模: 1,053億ドル

- ・製品 215億ドル、20.4%
- ・遠隔監視 298億ドル、28.3%
- ・統合セキュリティシステム 540億ドル、51.3%

出典: IMSリサーチ社 (IHSグループ)

企業と競争を繰り広げることになるだろう。

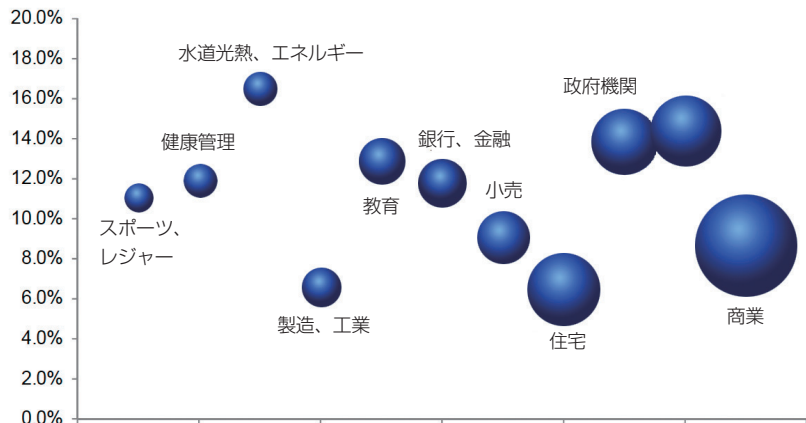
M&Aの減少

メモリー・ビジネス研究所によると、2011年の合併と買収の総額は90億ドルで、前年より23%上昇した。買収総額は、2012年には27%低下し、72億ドルになった。経済取引状況の悪化が、合併、買収による成長を目指す主力供給企業の意欲を低下させた。

2012年、Security 50掲載企業の合併と買収の数は減少した。Security 50掲載企業のフリーア社は、2012年末にロレックス・テクノロジー社を6,000万ドルで、トラフィック・インタナショナル社を4,600万ドルで買収した。TKH社は、オーガスタ・テクノロジー社とアーセット・セキュリティ・インタナショナル社を買収した。2012年、こうした買収が寄与した額は、売り上げで11億

物理セキュリティ機器のエンドユーザ別の市場

年複利成長率(%)、市場規模: 百万ドル



注: 球体の大きさは各業種の市場規模を示す。

出典: IMSリサーチ社 (IHSグループ)

5,600万ドル(8,700万ユーロ)、純利益で1,060万ドル(800万ユーロ)に達した。

オブテックス社は、セキュリティ企業向けの映像照明システムの製品と技術と販路を取得し拡張する目的で英国レイテック社を買収した。インフォニヴァ社も、マーチ・

ネットワークス社の買収を2012年内に完了した。

タイコ・インタナショナル社は、新たに企業を買収するのではなく、分社化という別の方法を選び、住宅セキュリティ事業を担うADT北米、フロー制御製品とサービス

2桁成長戦略

不確実性が支配する世界市場で、2012年に2桁成長を遂げた企業があることは注目に値する事実だ。売上を伸ばした上位12社は、成長率113.5%のインフォニヴァ社を筆頭に、アビジロン社(67%)、ダファ・テクノロジー社(60%)、TKHグループ(51.1%)、ダイナカラー社(50%)、ハイキビジョン社(35.6%)、HDPRO(29.8%)、シナティクス(28.7%)、サフラン社(28%)、スプリマ社(24.5%)、タイコ・セキュリティ・プロダクツ社(23.2%)、オブテックス社(22.8%)。

依然として好調なIP映像監視

一般に、IP映像監視の主要供給企業は、2012年も2桁の高成長を達成した。アビジロン社、ジオビジョン社、VIVOTEK社、マイルストーン・システムズ社、アクシス・コミュニケーションズ社、MOBOTIX社が、Security 50にランクインしている。

アジア企業の復活

中国および台湾および韓国のメーカーが、2012年にIPベースの技術に追い付くことができた。エヴァーフォーカス社、ダイナカラー社、ハント社、ITX社をはじめとする企業は、前年までに比べて売り上げ増を達成した。

需要の高い生体認証

世界市場での生体認証製品の力強い成長が、サフラン社とスプリマ社の成長を後押しした。スプリマ社は、「顔認証の新規技術と政府部門の本人確認ソリューションの需要の急増が勝った」と営業報告書に記している。

業種別市場、新興市場における浸透

主な成長戦略として挙げられるのは、合併と買収、独自技術の開発、新興国への市場拡大、業種別市場での製品の浸透である。

アビジロン社は、カナダおよび米国で固有の事業開発チームを編成し、カジノへの浸透を推し進めており、小売や交通、金融や政府関連などその他の業種別市場の開拓を継続する意向だ。

シナティクスグループのシナティクス・ネットワーク・システムズ社は、極めて重要なインフラの保護と遊技場に主眼を置いた戦略を展開し、特に上半期に米国の遊技場市場で好調を維持し、さらに英国、中東の中核顧客の大部分で順調な伸びを達成した。

2012年の新興国での成長は、一部の専門家が予測した高い期待値には達しなかったものの、新興国への拡張戦略は、多くの多国籍企業にとって引き続き非常に重要な成功要因になった。タイコ・インタナショナル社は、中国とインド、南米と中東への市場拡大の努力を続けた。また、アクシス社は、新興国の市場シェアを今後5年間で25%から40%に伸ばすことを注力する。

Security 50企業の売上高増加トップ12社

順位	2013年 順位	企業名	製品グループ	製品総売上高 (百万米ドル)		売上の伸び率 2011~ 2012年	2012年の粗 利益
				2012年	2011年		
1	17	インフォノヴァ社	映像監視	\$123.5	\$57.8	113.5%	1.0%
2	23	アビジロン社	映像監視	\$97.7	\$58.5	67.0%	49.3%
3	9	ダファ・テクノロジー社	映像監視	\$575.5	\$359.4	60.1%	21.4%
4	12	TKH グループ (セキュリティシステム部門)	複数	\$234.4	\$155.1	51.1%	*
5	33	ダイナカラー社	映像監視	\$70.2	\$46.8	50.0%	40.8%
6	4	ハイキビジョン・デジタル・テクノロジー社	映像監視	\$1,110.6	\$819.2	35.6%	*
7	32	HDPRO社	映像監視	\$70.3	\$54.2	29.8%	18.7%
8	30	シナティクス	映像監視	\$74.5	\$57.9	28.7%	39.7%
9	3	サフラン社 (セキュリティ・システム部門)	複数	\$1,610.7	\$1,258.5	28.0%	*
10	40	スプリマ社	入退管理	\$46.7	\$37.5	24.5%	47.6%
11	10	タイコ・セキュリティ・プロダクツ社	複数	\$500.0	\$406.0	23.2%	*
12	22	オブテックス (センサ製品事業)	侵入検知	\$100.6	\$81.9	22.8%	*
平均				\$384.6	\$282.7	44.5%	

を扱うペンティア、火災防災の3事業部に分割した。

メモリー・ビジネス研究所は、2011年9月から2012年8月までの間に、セキュリティのベンチャ投資家が18件の投資を行ったことを確認している。これら投資家は、計2億6,700万ドルを投資した。「ベンチャ投資家がセキュリティ業界への投資に自信を持っていることは明らかだ。これらの投資の大多数は、米国が本拠地のベンチャ投資家による米国が本拠地の企業への投資だ」とメモリー・ビジネス研究所は記している。

セキュリティ市場の競争が激化するほど、より多くの合併と吸収が行われるだろう。本誌は、今後数年間、こうした取引はさらに数を増すと予測している。しかし、こうした期待が現実になるには時間がかかるかもしれない。

上昇傾向をたどる2013、2014年

2013、2014年に目を向けると、長年続いている経済的不安定と激しい市場競争

は依然として続く。企業は集中し素早く対応することで、この難局を乗り切る可能性が生まれる。今年になってから、映像監視に加えて、入退管理、警告機器業界も成長の強力な牽引力になっている。

本誌は、これらの寄与要因に

より2013年が前向きな雰囲気です。

り、2014年

の新たな

なス

当社は、ハイエンド、ミドルエンド、エントリー・レベルと完全な製品ラインナップを揃え、革新性に注力し続ける。費用対効果に優れ競争力のある製品を用意し、エントリー・レベル市場にいかにか浸透するかが鍵になる。また、使いやすさを重視した当社のトータル・ソリューションは、手頃な価格で価格以上のユーザー体験を実現する。

ダファ・テクノロジー社社長リクアン・フ氏

ターゲットが可能になると予測する。Security 50に選ばれたプロバイダ各社は、イノベーションと新市場の開拓をリードし続けていくだろう。





2MEGAPIXEL FULL HD HD-SDI IR PTZ DOME CAMERA

- ✓ Day/Night Auto (ICR) / Color / B/W
- ✓ Backlight Compensation BLC / HLC / DWDR (Digital WDR)
- ✓ White Balance Auto, ATW, Indoor, Outdoor, Manual

高品質の確保と高い仕入効果を!

a&sグループがHD-SDIバイヤーズ・ガイドをお届けします。

HD-SDIバイヤーズ・ガイド

詳しい情報は<http://www.asmag.com/project/HD-SDI/>からどうぞ



QH-SB541-V 1080P 3G-SDI IR BOX CAMERA

- ✓ 1/3" Progressive CMOS
- ✓ Standard 3G-SDI/HD-SDI signal output
- ✓ Full HD resolution, 1920 x 1080, 25/30fps



TD-2716XD-P HD-SDI DVR

- ✓ Codec: H.264
- ✓ Camera Input s: SDI-16
- ✓ Monitor Outputs: HDMI-1/VGA-1/CVBS-1

2013 Top Security 50

2013年	2012年	企業名	本社所在国	製品分野	製品総売上高 (百万米\$)		売上の伸び率 2011年~2012年	粗利益(百万米\$)		利益の伸び率 2011年~2012年	2012年粗利益率
					2012年	2011年		2012年	2011年		
1	1	HONEYWELL SECURITY	米国	複数	\$2,500.0	\$2,400.0	4.2%	*	*	*	*
2	2	BOSCH SECURITY SYSTEMS	ドイツ	複数	\$1,972.2	\$1,923.0	2.6%	*	*	*	*
3	3	SAFRAN (セキュリティ製品部門)	フランス	複数	\$1,610.7	\$1,258.5	28.0%	*	*	*	*
4	5	HIKVISION DIGITAL TECHNOLOGY	中国	映像監視	\$1,110.6	\$819.2	35.6%	\$377.1	\$281.5	33.9%	34.0%
5	4	ASSA ABLOY (グローバルテクノロジー部門)	スウェーデン	入退管理	\$969.1	\$890.8	8.8%	*	*	*	*
6	7	AXIS COMMUNICATIONS	スウェーデン	映像監視	\$643.5	\$549.5	17.1%	*	*	*	*
7	6	FLIR SYSTEMS (サーマルビジョン、測定部門)	米国	映像監視	\$628.0	\$660.3	-4.9%	*	*	*	*
8	8	SAMSUNG TECHWIN	韓国	複数	\$603.6	\$576.7	4.7%	*	*	*	*
9	10	DAHUA TECHNOLOGY	中国	映像監視	\$575.5	\$359.4	60.1%	\$123.0	\$67.4	82.5%	21.4%
10	9	TYCO SECURITY PRODUCTS	米国	複数	\$500.0	\$406.0	23.2%	*	*	*	*
11	11	アイホン	日本	入退管理	\$374.2	\$346.2	8.1%	*	*	*	*
12	15	TKH GROUP (セキュリティシステム部門)	オランダ	複数	\$234.4	\$155.1	51.1%	*	*	*	*
13	14	NEDAP	オランダ	複数	\$204.4	\$182.0	12.3%	*	*	*	*
14	12	NICE SYSTEMS (セキュリティ・ソリューション部門)	イスラエル	複数	\$185.9	\$191.9	-3.1%	*	*	*	*
15	19	IDIS	韓国	映像監視	\$137.1	\$131.5	4.2%	*	*	*	*
16	13	RCG	香港、中国	入退管理	\$131.8	\$178.6	-26.2%	-\$82.8	\$32.7	-353.2%	-62.8%
17	35	INFINOVA	米国	映像監視	\$123.5	\$57.8	113.5%	\$1.2	\$6.6	-82.2%	1.0%
18	16	VERINT SYSTEMS (映像インテリジェンス)	米国	映像監視	\$119.5	\$138.0	-13.4%	*	*	*	*
19	22	VIVOTEK	台湾	映像監視	\$116.0	\$96.1	20.7%	*	*	*	*
20	24	MOBOTIX	ドイツ	映像監視	\$108.5	\$97.3	11.5%	\$82.5	\$74.7	10.4%	76.0%
21	-	HITRON	韓国	映像監視	\$105.2	\$110.8	-5.1%	\$7.9	\$8.0	-1.1%	7.5%
22	21	オブテックス (センサ製品事業部門)	日本	映像監視	\$100.6	\$81.9	22.8%	*	*	*	*
23	32	AVIGILON	カナダ	映像監視	\$97.7	\$58.5	67.0%	\$48.1	\$26.8	79.6%	49.3%
24	18	タムロン (一般向け&産業向け)	日本	映像監視	\$92.9	\$83.3	11.6%	*	*	*	*
25	20	AVTECH	台湾	映像監視	\$88.6	\$104.9	-15.6%	\$37.7	\$40.8	-7.6%	42.6%

2013年	2012年	企業名	本社所在国	製品分野	製品総売上高 (百万米\$)		売上の 伸び率	粗利益(百万米\$)		利益の 伸び率	2012年 粗利益率
					2012年	2011年	2011年~ 2012年	2012年	2011年	2011年~ 2012年	
26	17	CNB TECHNOLOGY	韓国	映像監視	\$87.2	\$109.5	-20.4%	\$21.8	\$27.5	-20.6%	25.0%
27	26	COMMAX	韓国	複数	\$79.7	\$87.5	-8.9%	\$21.5	\$21.6	-0.5%	26.9%
28	27	EVERFOCUS ELECTRONICS	台湾	複数	\$76.2	\$80.0	-4.8%	*	*	*	*
29	30	KOCOM	韓国	複数	\$75.0	\$72.9	2.9%	\$19.5	\$19.7	-1.0%	26.0%
30	33	SYNECTICS	英国	映像監視	\$74.5	\$57.9	28.7%	\$29.6	\$22.7	30.1%	39.7%
31	29	NAPCO SECURITY SYSTEMS	米国	複数	\$70.9	\$71.4	-0.6%	\$21.2	\$20.1	5.2%	29.8%
32	38	HDPRO	韓国	映像監視	\$70.3	\$54.2	29.8%	\$13.2	\$6.7	97.6%	18.7%
33	41	DYNACOLOR	台湾	映像監視	\$70.2	\$46.8	50.0%	\$28.7	\$18.4	56.0%	40.8%
34	28	GEUTEBRUCK	ドイツ	映像監視	\$69.9	\$82.5	-15.3%	*	*	*	*
35	36	GEOVISION	台湾	映像監視	\$67.4	\$55.5	21.4%	\$38.5	\$33.6	14.6%	57.2%
36	34	SIMONSSVOSS TECHNOLOGIES	ドイツ	入退管理	\$63.8	\$61.6	3.6%	*	*	*	*
37	43	MILESTONE SYSTEMS	デンマーク	映像監視	\$56.6	\$47.4	19.4%	*	*	*	*
38	39	FERMAX	スペイン	入退管理	\$51.9	\$52.5	-1.2%	\$30.5	\$30.8	-1.0%	58.8%
39	40	VICON	米国	映像監視	\$49.7	\$47.2	5.2%	\$19.6	\$18.2	7.9%	39.6%
40	47	SUPREMA	韓国	入退管理	\$46.7	\$37.5	24.5%	\$22.3	\$17.1	30.4%	47.6%
41	42	INDIGOVISION	英国	映像監視	\$46.6	\$44.5	4.8%	\$27.5	\$24.9	10.6%	59.0%
42	48	DALI TECHNOLOGY	中国	映像監視	\$44.4	\$37.6	17.9%	\$5.9	\$5.8	0.9%	13.2%
43	44	C-PRO ELECTRONICS	韓国	映像監視	\$41.1	\$39.3	4.5%	\$7.3	\$6.4	13.4%	17.7%
44	45	ITX SECURITY	韓国	映像監視	\$40.6	\$38.9	4.6%	\$11.7	\$9.6	22.4%	28.8%
45	37	YOKO TECHNOLOGY	台湾	映像監視	\$40.1	\$53.0	-24.3%	\$7.3	\$9.8	-25.4%	18.1%
46	49	WIN4NET	韓国	映像監視	\$36.2	\$31.9	13.5%	\$9.9	\$9.4	5.1%	27.3%
47	46	HI SHARP ELECTRONICS	台湾	映像監視	\$34.1	\$37.2	-8.3%	\$3.9	\$5.0	-22.6%	11.3%
48	50	MAGAL SECURITY SYSTEMS (境界監視製品)	イスラエル	侵入検知	\$33.9	\$30.0	13.1%	*	*	*	*
49	-	HUNT ELECTRONIC	台湾	映像監視	\$28.7	\$27.6	4.0%	\$8.4	\$6.0	40.0%	29.3%
50	-	EVERSPRING INDUSTRY	台湾	侵入検知	\$25.4	\$22.8	11.2%	*	*	*	*
平均					\$294.3	\$263.7	12.3%				

中国企業のグローバル化へのアプローチ

中国のグローバルなセキュリティ市場への勢力拡大は、今後数年間、新たな基準になり得る。本誌は、ハイキビジョン・デジタル・テクノロジー社、ダファ・テクノロジー社、TVTデジタル・テクノロジー社、そして次世代の希望の星ZNV社にインタビューし、各社の最新の戦略を聞いた。

消費者向けパソコン分野におけるレノボ社や電子商取引分野におけるアリババ社など、数多くの中国ブランドが世界中で名声を得ている。しかし、中国のセキュリティ機器プロバイダは、国際社会での存在感という点では、大部分がまだ初期段階にある。ハイキビジョン・デジタル・テクノロジー社、ダファ・テクノロジー社、TVTデジタル・テクノロジー社など一部の主力企業は、近年全世界でその存在を示し名声を確立してきた。研究開発に重点を置き、品質を高める中国企業は増加しており、今後数年間、国外への販売の拡大を積極的に進めていこう。

2012年にZTE社から分社したばかりのZNV社は、世界セキュリティ市場への進出計画を発表した。ZTE社は中国に本社を置く大手国際電気通信事業者で、ZNVの勢力範囲は広い。

「世界の工場である中国は、原材料から構成部品、最終装置に至るまで、非常に包括的な製造サプライチェーンを有する。そのため、中国に本拠を置く開発企業やメーカーは、当社のように海外市場に向けて高品質の製品を出荷することができる」と、ZNV社マーケティング取締役ウィリアム・タン氏は語る。

ハイキビジョン社やダファ社など、Security 50に名を連ねる中国企業は、30%を超える売り上げの伸びを達成し

ている。両社とも年を追うごとに海外市場のシェアを増やしている。「今後5年間で海外市場と国内市場の売上が同等になることが望ましいと考えている」とハイキビジョン・デジタル・テクノロジー社国際マーケティング担当取締役ケーン・ヤオ氏は言う。「同時に世界の映像監視業界の平均成長率を上回る平均30%の年間成長率を維持していきたい」。

「欧州の経済環境が悪化していることから、新興国の伸びがハイキビジョン社の成長に大きく寄与してきた」と同氏は言う。「昨年は、南米とアジア太平洋地域、EMEA地域に進出することができた。ロシアも大きく伸びた国の1つだ。当社は、各地の子会社や提携先と非常に密接に連携している。近い将来、現地事業所を設立する地域を数カ所選定する予定だ」。

トータル・ソリューションというアプローチ

多くの中国企業が、世界市場の拡大という目標を達成するため、品揃えを充実させ、トータル・ソリューション・プロバイダになることを目指している。「当社は、エントリレベルからミドルレンジ、ハイエンドまで、映像監視製品ラインを取り揃えている」とダファ・テクノロジー社マーケティング担当取締役ティム・シェン氏は語る。「当社は、社内開発技術であるHDCVI (High Definition Composite Video Interface)を最近製品化した。HDCVIは、HDへのすばやく簡単なアップグレード、長距離伝送、同軸ケーブル1本で映像と音声と制御信号を伝送、映像損失ゼロ、ライブ・プレビューを実現する同軸ケーブル・ベースの新



▲ ハイビジョン・デジタル・テクノロジー社
国際マーケティング担当
取締役ケン・ヤオ氏



▲ ダファ・テクノロジー社
マーケティング担当
取締役ティム・シェン氏



▲ ZNV社
マーケティング取締役
ウィリアム・タン氏



▲ TVT デジタル・テクノロジー社
海外事業部長ジョウ・キウ氏

しいソリューションで、既存のアナログ環境を無駄にすることなくHDに移行することができる。また、インタフォン機能も備えている」。

ダファ社は、中国国内で大型案件を受注できる地位を維持してきた。同社は、今後も急速な成長を維持するため、ソリューション・ベースのインテリジェント化HD製品を追及し、業界の先頭を走り続けるだろう。家庭のエンドユーザを例にとれば、ネットワーク映像レコーダとセットで販売されるキューブカメラは、シンプルな構成と簡単に使用できるプラグアンドプレイ機能が特長だ。このようなカメラを国内市場と海外市場の両方に投入する準備を整えているとシェン氏は言う。

TVTも技術を重視した中国企業で、過去10ヵ月間プラス成長を遂げてきた。「IPビジネスは右肩上がりだ」とTVTデジタル・テクノロジー社海外事業部長ジョウ・キウ氏は言う。「アナログ製品も販売台数が大幅に増え、HD-SDI製品も順調に伸びている。当社は、レコーダ製品から

カメラへと事業をうまく拡大することができた。現在の当社の取扱製品は、アナログCMOS/CCDカメラ、1080p/720p SDIカメラ、1080p/720p IPカメラだ」。

TVT社は、国内市場での売り上げが大部分を占める多くの中国企業とは異なり、高品質を武器に何年も前から製品を海外市場で展開してきた。同社が国内販売拡大の方針を決定したのはつい最近のことだ。

「近年、当社のHD-SDI製品の売上は好調だ」とキウ氏は言う。「安全保障に妥協は許されないので、国土安全保障など極めて重要な用途ではHD-SDIの市場はまだ開かれていると考えている。アナログと比較した場合のHD-SDIのメリットについては、ユーザ教育に努力を重ねてきたことで非常に有望な結果が得られた」。

業種固有のアプローチ

世界市場でZNV社は比較的新しい存在だ。2014年、ZNV社は親会社であるZTE社だけに依存するのではなく、海外

市場に独自の販路を確立しようとしている。ZTE社は、世界市場でZNV社の最も密接なパートナーになる。ZNV社は、市場で目標とする地位を確立するため、工業用途や公益事業、国土安全保障を対象にした独自のソリューションを開発している。「例えば、化学プラントの大規模な監視用に、埃や水を除去するためのブラシ、インテリジェントな赤外線調光、インテリジェントな同期赤外線ズームを搭載したユニークなPTZドームカメラを提供することができる」とタン氏は言う。

統合に向けて改善が必要

「中国製」の負のイメージは徐々に改善されてきたものの、中国製品は、相互運用性や使い勝手そして機械設計などで、外国製品と比較してまだ弱い。「サードパーティ製品との統合機能を強化するため、ONVIF、PSIAなどの国際標準規格に準拠している」とヤオ氏は言う。「さらに、入退管理や警報製品と当社の映像製品の接続性も強化してきた」。

国際企業に成長するには製造能力だけでは足りないタン氏は言う。ZNV社のように、チップセットやアルゴリズム、カスタムサービスやソフトウェアなどの開発で革新性を推進し、特許技術を有する研究開発指向の企業こそが世界市場に進出することができる。



“

国際企業に成長するには製造能力だけでは足りない。研究開発指向で、あらゆる側面で技術革新に注力する企業でなければならない。

”



ネットワーク映像監視の潮流は モバイルへの対応と画質の向上

2014年のネットワーク映像監視の潮流とは? 業界のトップ企業に聞いた総合的な展望を紹介する。

1. 2014年、IPの売上がアナログを追い越す

HIS社によると、ネットワーク映像製品の売り上げは、2014年初めてアナログを追い越す見込みだ。世界のIP映像監視市場の伸びは、今後5年間は堅調と見られているが、この成長率は、新設設備数や既存設備の影響を受けるため、国により異なると思われる。



アクセス・コミュニケーションズ社
最高技術責任者
ヨハン・ボールマン氏

「今後4、5年間、世界のネットワーク映像市場は依然として20～25%の年間成長率を維持する。ネットワーク映像市場は、世界各地で急速な成長を続けると予想されている。監視カメラの1人当たりの普及率が最も高いのは英国と中国だ。両市場では依然としてアナログカメラが大部分を占めるが、近年デジタルシステムに興味を示すユーザが増加の一途をたどっている。また、ネットワーク映像の普及率が最も高いのは中東と北欧諸国だ。ネットワーク映像が肯定的に受け止められていることが、両市場の全顧客層でのデジタル・ソリューションの需要の急速な増大につながっている」。

2. 中小企業へのIPの浸透が続く

大型システムの場合、大部分が既にIPに移行済みである。アナログシステムは、既存の設備数は多いが、新たな設置計画は少ない。今後5年間、カメラの設置数が16台未満の中小企業層にどれだけ急速に浸透できるかがIP映像の今後の成長率に大きく影響する。アクセス・コミュニケーションズ社、アビジロン社、ボッシュ・セキュリティ・システムズ社、マイルストーン・システムズ社、ソニー・エレクトロニクス社など、多くの主要IP映像監視が、かつてのような大規模で複雑なプロフェッショナル・ソリューションではなく、中小企業層に魅力的な小規模システムを発表している。



ソニー・エレクトロニクス社
アジア太平洋地域
プロフェッショナル・
ソリューションカン
パニー、ビジュアル
セキュリティ・ソ
リューション担当
ゼネラル・マネジャ、
リキ・ニシムラ氏

「ソニーのIP製品は、ハイエンド・セキュリティ、政府セキュリティ分野で絶大なブランド認知度を達成している。この認知度は、新興国における大規模受注によりさらに高くなった。また、当社は民間セキュリティ、中小企業分野での存在の強化を全世界で続けてきたが、こ

れらの分野における売り上げにより、世界経済の不確実性に起因するセキュリティ案件延期の影響をカバーすることができた。こうした取り組みの証は、当社の最新のフル機能、一体型コンパクト・セキュリティカメラに見られる。この最新型カメラは、効果的なセキュリティ・ソリューションの導入を望む全ての顧客をターゲットにしている」。



VIVOTEK社
取締役副社長
スティーブ・マキ氏

「最高の成長率でIP映像の普及を推進し得る市場は、大規模設備案件から小規模な設備計画へと移り変わってきた。そのため今後IP映像の成長を担う原動力は、IPサプライヤが、カメラの設置数が16台未満の中小規模ユーザ市場向けに、より費用対効果の高いソリューションや『ユニーク』なソリューションを提供し、アナログシステムと競合することができるかにかかっている。IPシステムの価格は絶対的な要因の一つだ。720pネットワークカメラは、近い将来、この分野に元々存在したCCTVの市場を追い越すだろう」。

「当社の新しいパノラマPTZカメラは、開放区域の監視に適した中小企業市場向けの製品で、細部まで精細な画像が得ら

れる。この機能は、当社のメガピクセル魚眼カメラと高速ドームカメラの相乗効果により実現しており、カメラ台数や労務費、消費電力や維持費などを効果的に削減し、監視システムの総コストを低減することができる。小売業に最適のカメラだ」。

3. 映像と入退管理の統合の要求が高まる

2013年は映像と入退管理の統合の要求が高まった年だった。映像監視機器メーカーはより高いセキュリティを求める顧客のニーズを満たすため、入退管理の技術を手に入れるか、入退管理システムメーカーと提携するという手法で対応する。



アクセス・コミュニケーションズ社
最高技術責任者
ヨハン・ポールソン氏

「物理的入退管理システムの市場は、オープンなIP技術に移行する準備ができています。現在当社は、Webベースのソフトウェアを内蔵したネットワーク・ドアコントロールを投入し、市場に参入しようとしています。当社の最新ネットワーク・ドアコントロールは、当社のネットワーク映像製品ラインを補完するもので、中小企業をはじめあらゆる規模の企業に有用なソリューションだ。入退管理と映像監視は強い関連性があるため、当社の製品開発で、物理的入退管理の市場に革新的な製品を投入するのは当然のステップだ」。



アビジロン社
CEO兼社長
アレキサンダー・フェルナンデス氏

「2014年、RedCloud入退管理と当社のソリューションのシームレスで完全な統合が実現する。入退管理をHD映像監視に統合すればセキュリティ上のメ

リットが増すが、この統合には難題がつかまとう。2014年、当社の入退管理ソリューションが市場に投入され、エンドユーザは、フル機能の監視システムを購入するか、ニーズに合った製品を選ぶかを容易に選択できるようになる」。



ハネウェル・セキュリティ社
マーケティング・コミュニケーション
取締役
デイビッド・ゴトリープ氏

「映像監視システムと侵入検知、入退管理の統合など、システム統合の機能がセキュリティ業界の成長の鍵になると予想している。システムの統合により、よりスマートで広範な制御が可能になる。またシステムを統合し、モバイル機器で利用できるようになれば、エンドユーザは、自身のセキュリティと生命の安全、ライフスタイルに合ったシステムをよりの確に把握することができる」。

4. トータルIPソリューションが好まれる

IPシステムでは相互運用性が大きな意味を持つため、特に米国市場、欧州市場を目指すサプライヤは、統合や設置、アナログからIPシステムへの移行に起因する問題を解消するため、トータルIPソリューションを顧客に提供する。



IDIS欧州社
常務取締役、
ブライアン・ジョンソン氏

「完全なワンストップ・ソリューションを提供するのが当社の戦略だ。必要なものを全て提供することができるソリューションであり、IPカメラとNVR、必要なネットワークアクセサリの全てが揃っている。当社は、設置業者はサードパーティITベンダを購入チェーンに組み入れたくないこと、エンドユーザは複数の業者の介在によって価格が高くなること

不満であることを認識しているため、設置業者が完全な次世代HD監視ネットワーク・ソリューションを構築する上で必要なものを全てを提供している」。



パナソニック・システム・コミュニケーションズ
北米社映像ソリューション統合チーム
上級取締役
グレッグ・ペラット氏

「当社は、ソフトウェア、カメラ、ハードウェアまたはソフトウェアベースのレコーダなど、完全なエンドツーエンド・ソリューションを1社で顧客に提供できるユニークなメーカーだ。当社は、完全な映像監視、セキュリティ・ソリューションを提供することができ、ハイブリッド環境から順次移行する顧客を支援することができる」。



サムズ・テックウィ
ン社セキュリティ・
ソリューション部門
製品計画 & 戦略
マーケティング担当
上級副社長、
ジョナス・アンダー
ソン氏

「エンドユーザ顧客が求めるのは製品ではなくソリューションであり、鍵を握るのは選択の柔軟性だ。当社は、メーカーとして、エンドユーザの要求条件が実に多様であることを理解している。要求条件は、各顧客の特性により実に様々だ。当社は、共同でソリューションを提供できる企業のネットワークを構築し、拡大している。当社の顧客は、当社独自の完全なソリューションを導入するか、当社の製品とパートナー企業の製品を統合するかを選択することができる」。

5. VMSを搭載した機器が増加

使い勝手の良いプラグアンドプレイ方式のIP映像ソリューションを提供するため、「VMSを搭載した」機器を提供するサプライヤが増えている。ハードウェアにソフトウェアをバンドルすること

で、設置業者もエンドユーザも、異なる機器の統合に要する時間と労力を節減することができる。



マイルストーン・システムズ社
起業支援&ベンチャー
事業担当 副社長
ラース・ノルデン
ランド氏

「当社は、すぐに使える監視ソリューションの新型NVRをリリースしたばかりだ。あらかじめ設定済みの当社の先進VMSを高性能なハードウェアに搭載したこの製品は、性能を最適化したソリューションの新ファミリで、購入後すぐに映像監視を行える。当社は、柔軟な設定が可能で拡張性に富み、強力なプラグアンドプレイ製品を幅広く開発し、様々な要望に対応するという壮大な構想の下、新型機器シリーズを開発した」。



IDIS欧州社
常務取締役、
ブライアン・ソン
グ氏

「当社が新たに開発したIP映像ソリューションは、プラグアンドプレイを採用しており、アナログ・ソリューション同様に簡単に設置することができる。また、接続性に優れ、サードパーティ製のカメラやシステムと統合することができる。VMSもバンドルされているので、ユーザは、NVRシステムと既存のDVRベースのシステムの両方から、統合されたセキュリティ環境の管理を行うことができる。当社が提供するエンタープライズ・レベルのVMSソリューションは、ネットワーク入出力モジュールを通じて、複数のセンサやアラーム機器と統合することができる」。

6. モバイル対応が基本機能に

IDC社の報告書によると、タブレット

端末の出荷台数は2015年末までにPCの出荷台数を上回ると見られている。スマートフォンの出荷台数も高水準を維持すると思われ、2015年には14億台を超え、全世界のスマート接続機器の出荷総数の69%を占める。こうしたモバイルのトレンドに対応して、セキュリティ機器の接続性がさらに強化され、スマートモバイル機器との統合が可能になる。



ハネウエル・セキュリティ社
マーケティング・コミュニケーション
取締役
デイビッド・ゴト
リーブ氏

「当社は、モバイル機器を使用して当社のIPベースの映像監視ソリューションに接続でき、使いやすいモバイルアプリケーションを開発した。iOSとAndroid機器向けに開発され、インターネットに接続できれば、どこでも使用できるこのアプリケーションを使用して、ライブ映像の視聴、フル画面表示、日時を指定した映像の検索と再生、映像フレームのスナップショットの生成などが行える。ドラッグアンドドロップでカメラを指定し、カスタム表示を行うこともできる」。



パナソニック・システム・コミュニケーションズ
北米社映像ソリューション統合チーム
上級取締役
グレッグ・ペラット氏

「2013年初頭に、当社は初のモバイル・セキュリティ管制室ソリューションを発表した。当社のタブレット端末を使用して、当社の高性能なIPベースの監視カメラ、レコードにリモート接続することができる。このソリューションは、当社の強力なエンタープライズ・グレードのタブレット端末のモバイル性と当社の最先端の監視技術を組み合わせることで一段と柔軟性を高め、掌のモバイル機器でセキュリティシステムの操作を行えるようにしたものだ」。

7. 家庭ユーザと小企業への普及が拡大したエッジ・ストレージとクラウド・ストレージ

エッジ・ストレージとクラウド・ストレージは、小企業や家庭ユーザにとり、簡単に使用できる拡張可能なソリューションで、VSaaS(Video Surveillance as a Service)ビジネスモデルの拡大やSDカードの大容量化と低価格化に伴い、勢いを増すだろう。当社は、Cameramanager.comを買収し、サービス・プロバイダになった。映像機器メーカーとサービス・プロバイダの提携も増えている。



アクセス・コミュニケーションズ社
最高技術責任者
ヨハン・ポールソン氏

「当社はエッジ・ストレージも提供している。映像は全てカメラに装着したSDメモ리카ードに記録する。中央のDVR、NVR、PC、サーバに記録する必要はない。クライアントまたはスマートフォン・アプリを使用して、ライブ映像や録画映像を表示し、イベント発生時に映像をエクスポートすることができる」。

8. ビジネスを生み出す技術になりつつあるVMSとインテリジェント映像

映像ストリームの監視、解析から生み出されたVMSとインテリジェント映像は、ビジネスを生み出す技術になりつつある。様々な業種でVMSやインテリジェント映像を使用することで、ビジネスに関わる業務をより円滑に行うことができる。

「製品を販売する際、インテリジェント映像解析は、顧客の興味をそそる重要なアプリケーションだ。インテリジェント映像解析の有効性が高まり、市場



サムスン・テックウィ
ン社セキュリティ・
ソリューション部門
製品計画&戦略
マーケティング担当
上級副社長、
ジョナス・アンダー
ソン氏

での実際の採用が増えているが、専門家にとってはまだニッチ市場にすぎない。当社は、カメラのオープン・プラットフォームを採用し、一般市場とニッチ市場の両方をサポートできるようにになった。映像解析の要求が生じたら、映像解析の専門企業と協力の上、映像解析機能を当社のカメラに組み込む。『特殊な』カメラではなく、顧客が日常的に購入する普通の当社のカメラに映像解析機能を組み込むことができる」。

9. 高画質、照度が非常に高い環境や低照度環境における性能

セキュリティ業界は、画質の向上を目指して、HD、フルHD、さらには、ウルトラHDに至るまで、今もなお、様々な技術の開発を進めている。イメージセンサの飛躍的な進歩とソフトウェアによって、照度が非常に高い環境や低照度環境におけるカメラの性能が向上した。技術の進歩とともに、使い勝手を向上させるための取り組みが行われている。また、相互運用性の向上、容易な設置、シームレスなストリーミングを実現する効率的なネットワーク伝送など、様々な強化が行われるだろう。



ソニー・エレクト
ロニクス社
アジア太平洋地域
プロフェッショナル・
ソリューションカン
パニー、ビジュアル
セキュリティ・ソ
リューション担当
ゼネラル・マネジャ、
リキ・ニシムラ氏

「アジアで他のセキュリティブランドが出現し、アジア太平洋地域で価格競争が繰り広げられてきた。しかし、当社は中核となる画質に注力し、他のブランドとの差別化を続けて



いく。特に、当社のG6プラットフォームと最新のプロセサはエキサイティングだ。このプロセサにより、当社のHDカメラは強い逆光下でも高精細な画像を実現し、厳しい監視環境に対応できる完全なセキュリティ・ソリューションになる」。



ボッシュ・セキュリ
ティ・システムズ社
映像システム部門
マーケティング
コミュニケーション・
マネジャ
ピーター・ファン・デン
ルーヴェレン氏

「2014年、人の追跡、顔の特徴の撮影、人数の把握の最新技術を搭載したウルトラHDカメラをセキュリティ監視市場に投入する予定だ。当社は画質の向上への投資を続けており、映像監視目的の最高の画像をいつでも、どこでも使用できるソリューションを提供する。2013年、当社は、画期的なスターライト技術を導入した。この技術を利用して、最も厳しい照明環境下でも画像を配信できるセキュリティ監視市場向け製品を提供していく」。



アビジョン社
製品マーケティング
取締役兼プロダク
トマネジャ
イアン・ボヴェイ氏

「最近まで、完全な暗闇や低照度下で細部を鮮明に表示できる製品が存在しなかった。最近、当社は、独自の適応型赤外線照明技術を搭載したHDバレット、ドームカメラを市場に投入した。この適応型赤外線照明技術は、完全な暗闇でも非常に高精細な画像を実現するため、どのような撮影状況でも、画像の細部が鮮明に表示される。また、2013年9月、極度の低照度環境でも証拠になる高精細なカラー画像を、最も効果的な方法で撮影できる新技術を搭載した1.3 HDカメラとHDドームカメラを発表した」。

AKS

分野別動向 入退管理業界に押し寄せる 標準化の波

2013年、入退管理業界は好調を維持した。年の空けた今、世界の様々な地域でのこの業界の状況を振り返る。民間部門と政府部門でのビジネスチャンスがこの業界を牽引し続けている。全体的な傾向として、機械式アプリケーションから電子式アプリケーションへの移行や、生体認証、無線アプリケーションの採用が続き、近距離無線通信 (NFC) アプリケーションも登場しようとしている。エンドユーザは、物理的セキュリティと論理的セキュリティの融合も重視する傾向にある。

2013年も終わり、セキュリティ業界を見直す時期になった。本稿ではセキュリティ業界の中でも業績が好調な入退管理業界を概観する。

入退管理業界は好調に推移しており、市場は引き続きビジネスチャンスが発生している。こうした視点に沿って、IHSグループのIMSリサーチ社は、世界の入退管理市場の規模を2011年の21億米ドルが2013年末には23億米ドルに到達すると予測している。

入退管理市場

入退管理市場は、引き続き世界経済を反映しており、各地域における業績は国家の経済実績と歩調を合わせている。しかし、この業界は全体として、弱体化した経済環境下でも優れた業績を残している。

世界規模で見ると、「IMSリサーチ社は、2011年から2016年までの入退管理の世界市場の年複利成長率を6.5%、電子ロックを含めると7.2%と予測している」とタイコ・セキュリティ・プロダクツ社ソフトウェアハウス製品管理取締役ジェイソン・オウレット氏は言う。地域別には、「欧州・中東・アフリカ地域の

年複利成長率3.2%、電子ロックを含めると7.5%から、北中南米の年複利成長率5.9%、電子ロックを含めると6.6%までと幅があるが、特にアジア太平洋地域では年複利成長率9.7%、電子ロックを含めると15.5%と数字が跳ね上がる。当社は、電子ロックを除く各地域の入退管理市場について、IMSリサーチ社の予測を上回る力強い成長を予想している」と同氏は付け加える。

地域

市場規模の点では米国が入退管理製品の最大市場だ。フリードニア・グループは、米国のセキュリティ業界で最も成長が著しい製品分野として入退管理を挙げ、年9%の成長を続け、2016年には56億ドル市場にまで拡大するとしている。「北中米の業績は好調だ。特に米国では、数年来の困難な時期からの立ち直りが見られる」とアッサ・アブロイ社 EMEA地域・入退管理製品担当副社長クリス・ボーン氏は語る。

AMAGテクノロジー社セールス&マーケティング担当副社長マット・バルネット氏の見解も同じだ。「中南米では、いくらか市場の復活傾向が見られる。コロンビア

は成長を続けており、オリンピック開催予定地のブラジルは、世界的イベントの準備を進めており、近年の政治的、経済的緊張から解放される可能性が高い。幾つかトラブルが発生している分野があるのは明らかで、急激な成長曲線は見込んでいないが、今後12~18か月のうちにブラジル市場の立ち直りが見られるはずだ」。

予想通り、新興市場は先進国市場よりも速いテンポで成長を続けてきた。「東欧や中東そしてアフリカなどの新興地域は、欧州の既存市場よりも力強い売上の伸びを見せている」とHIDグローバル社 EMEA地域担当常務取締役ハーム・ラドスターク氏は言う。

「中東や東南アジア市場での重要な推進力は、セキュリティシステムとビル管理システムの統合だ。しかし、こうした統合は重要ではあるが、当社が得た情報によると、英国市場では顧客が特に求めているのは支払った金額に見合う価値と投資利益だ」とTDSi社常務取締役、ジョン・デイヴィーズ氏は語る。

市場の推進力

経済環境は厳しいが、入退管理の重要

性は依然として存在するどころか、年々高まっている。

第一に、企業、政府が保有するデータの量は過去数年間で飛躍的に増加しており、データへのアクセス管理は、データを保管するシステムでも保管場所でも極めて重要だ。

第二に、機械式ロックから電子ロックへの移行は2013年に具体化し、既存システムをアップグレードする機会が多数発生した。電子ロックを導入すれば、「いつ」「だれが」システムにアクセスしたかなど、トランザクションの詳細の記録が可能になり、説明のつくセキュリティシステムを構築することができる。

第三に、入退管理システムと映像監視システムや侵入警報システムの統合は、現在、IPベースのシステムで可能になっている。この統合に関しても、エンドユーザの期待が高まっており、需要が喚起されつつある。

最後に、社会経済的要因として情報へのアクセスに関する新たな規制措置が設けられていること、一般大衆のセキュリティへの関心が高まってきたことなどが挙げられる。これらの要因により、あらゆる業種で入退管理システムのアップグレードや新たなシステムの導入の必要性が高まってきた。

部門別市場動向

民間部門

民間部門では、地域により推進要因は異なるものの、総じて活動は活発化しつつある。「カナダの成長は、石油とガスの収益への依存度が高い。カナダ市場では石油とガスが成長を促す重要な要因だ。米国では民間の建設が大きく回復を見せている」とバルネッテ氏は言う。

「民間部門では、かなりの活動が展開されている。例えば、企業がスペースを統合し新たな場所に移転するといったテナントの居住性の向上を目指した小中規模の案件が多数発生している」と同氏は続ける。

同様に、Napco社でも民間部門は堅調だ。同社は民間部門の方が「変動が少ない」と考えており、商工業用製品とサービスが年間の売上の約80%を占める。

大西洋の反対側の欧州でも、民間部門から多くのビジネスチャンスが生まれている。「当社は、欧州の改修市場に大いに注目している」とバルネッテ氏は言う。

政府部門

予算の削減にもかかわらず、政府部門は、2013年も引き続き緩やかな成長が見込まれる。

IMS社によると、米国の政府部門の入退管理市場は、2012年の1億9,100万ドルから、2013年には3.5%成長して約1

億9,800万ドルに達すると見られている。2011年の売上高は1億8,800万ドル、2012年の成長率は1.8%であり、成長率が上昇している。

HSPD12 (Homeland Security Presidential Directive 12)、FIPS 201-2 (Federal Information Processing Standard Publication 201-2)、グローバル・エントリ・プログラムなど、多くの政府主導の取り組みが現在の成長を推進していると言われている。HSPD12は、連邦政府の職員および請負業者全員が使用しなければならない、安全で信頼できる個人識別情報の形式の標準化を命じた指令である。FIPS 201-2は、Cardholder Unique Identifierを認証機器とするもので、政府機関内に設置される信頼性の高い読取装置の市場を推進すると考えられる。グローバル・エントリ・プログラムは、予め認められた、危険度の低い旅行者が入国審査をすばやく完了できるように考案されたプログラムで、虹彩認証や顔認識などの生体認証の需要を促進すると考えられる。

米国政府は、重要な社会基盤を保護するための新技術を採用し続けると見られている。そのため、危険度の高い場所に配置されるセキュリティ・ソリューションは、デジタル時代にこそ進化し存続する必要があることから、入退管理システ



▲タイコ・セキュリティ・プロダクツ社
ソフトウェアハウス製品管理
取締役ジェイソン・オウレット氏



▲AMAGテクノロジー社
セールス&マーケティング担当
副社長マット・バルネッテ氏



▲TDSi社
常務取締役ジョン・デイヴィース氏



▲Nedapセキュリティ・マネジメント社
セールス取締役
アルジャン・ボータ氏

ムのサプライヤの市場機会は、政府予算が削減されてもなお存続する。

欧州特に英国では、政府庁舎で二酸化炭素排出の削減の達成目標の設定が開始されている。特に排出削減方針が規定されたわけではないが、入退管理ソリューションのプロバイダは、多くの欧州諸国でエネルギー・コストが上昇していることから、こうした動きの中に潮流を見出している。例えば、TDSiは約7年前に入退管理とビル管理、映像監視と侵入警報の統合を開始している。

規制下にある業界

入退管理の導入の重要な推進要因の一つが政府による規制措置だ。政府部門に続いて、衛生と安全に関する規制措置の継続、さらには、医療や教育、石油やガス部門でのプライバシー保護の問題も販売を促進する要因になっている。

「米国の医療産業は、過去10数年間に大きな成長を遂げた。例えば、大規模な病院の複合施設を建設する代わりに、コミュニティ内に小規模な施設を分散させる手法が用いられている。医療産業としては、顧客のいる場所に少しでも近づきたいので、施設の規模を小さくし、分散させている」とバルネッテ氏は言う。

さらに、教育部門では、最近発生した

狙撃事件を受けて、セキュリティ関連支出特に入退管理分野の支出を増やしている。世界的にテロリズムや国境を越えた脅威が増加しているため、空港や港でセキュリティのアップグレードが継続されると考えられる。

製品の潮流

業界の専門家は、過去10年間に進行してきた機械式ロックから電子ロックへの移行に加えて、近距離無線通信(NFC)や生体認証、PoE(Power over Ethernet)や無線システムなど、多くの技術が成熟しつつあり、市場シェアを徐々に伸ばしていく可能性が高いと考えている。また、オープン・スタンダードの進展が入退管理の今後の展望に影響を与えるのは間違いない。標準化は確実に進行しており、ONVIF (Open Network Video Interface Forum) とPSIA (Physical Security Interoperability Alliance) が標準化の方向に進むことを発表している。ONVIFは、2013年8月、



▲HIDグローバル社 EMEA地域担当 常務取締役ハーム・ラドスターク氏



▲アッサ・アブロイ社 EMEA地域向け入退管理製品担当 副社長クリス・ボーン氏

物理的入退管理のクライアントと機器間の相互運用性を実現するための仕様を公表した。9月には、PSIAが物理的入退管理と論理的入退管理の同期を目的とした物理&論理アクセス相互運用性作業グループの立ち上げを発表した。

機械式から電子式への移行

機械式ロックから電子入退管理への移行は、市場を推進し続ける。電子入退管理システムは、機械式入退管理システムの短所を克服してきた。こうした入退管理により利便性がもたらされるが、偽造文書を使用した侵入、前の車の後ろにびつたりとついてゲートを突破する行為、IDの盗用など、新たな脅威が発生している。

こうした技術の移行は、アッサ・アブロイ社の戦略に反映されている。「ここ数年間、電気機械事業に精力を注いだ結果、当社は過去数年間、この事業分野で飛躍的な成長を遂げてきた。現在、この分野は当社のEMEA地域での事業の約26%を占める」とボーン氏は言う。

「この市場分野は、既存の機械式分野に比べてはるかにハイピッチで伸び続けている。既に確立されている西欧市場では新規建設は少ないかもしれないが、あちこちで既存の建造物の改修が行われている。東欧やアフリカそしてアジアでは、当社が恩恵を受ける新規建設案件が多数存在する」と同氏は言う。



危険度の高い場所に配置されるセキュリティ・ソリューションは、デジタル時代こそ進化し、存続する必要がある

NFC

明らかな傾向として、モバイル機器対応アプリケーションを搭載した入退管理製品が増えている。スマート機器の普及により、NFCとモバイル技術は今後も普及し続けるだろう。

NFC技術が登場してから10年になるが、NFC対応のモバイル機器にモバイル入退管理を搭載するための基盤が整備されたのは2012年のことだった。しかし、業界専門家によると、近い将来、NFC対応スマートフォンが完全に物理的なスマートカードに取って代わる可能性は低く、モバイル入退管理ソリューションは、今後もスマートカードと共存するだろう。とは言え、スマートフォンに認証情報を組み込み、論理的入退管理と物理的入退管理を融合することができるのが、NFC対応のモバイル入退管理

の重要な利点の一つだ。

こうした潮流に沿って、メーカー社がNFC技術の採用を開始している。例えば、TDSIIは2014年にNFC対応読取装置の発表を予定している。「多くのエンドユーザがモバイル機器をセキュリティ・アクセス用に使いたいと考えていることは明らかで、業界全体がこのことを念頭に置く必要がある」とデイヴィーズ氏は言う。

インガソル・ランド・セキュリティ・テクノロジー社によると、大学がNFC対応入退管理をいち早く採用する可能性が高い。大学は、比較的短期間の滞在客が多いホテルとは異なり、学生の数や学生個人を把握できるため、より閉ざされた環境と言える。学生数が多くても、各学期の間、学生一人ひとりにアクセス権を割り当てることができ、割り当て後の変更は比較的少ないと考えられる。

無線ロック

無線ロックも米国の住宅市場で導入が進んでおり、メーカー各社は家庭向け無線ロックの今後を楽観視している。ある入退管理システム・プロバイダによると、無線ロックの導入により、状況認識力と管理能力を向上させることができる。

改修市場では無線入退管理のビジネスチャンスが多数発生している。現在、電子ロックシステムの最大70%が無線製品を内蔵しており、設置時間は最大50%短縮できると予想されている。機密を保持しなければならないデータや場所へのアクセス制御は重要であり、たとえ予算が厳しくても妥協は許されないため、医療などの業種別市場でも無線ソリューションがもたらす恩恵は大きい。

こうした潮流を見てアッサ・アブロイ社は、無線技術を搭載した無線ロックで



貴方のセキュリティ
システムの
DNAは？



自在に選べる、 堅固な統合セキュリティシステム

実績豊富なオムニキャスト・ビデオ監視システムを搭載したSecurity Centerから始めましょう。入退室管理、侵入検知、資産監視、ビル管理などのビジネスシステムが次の展開となります。すべてのシステムと設備でモニター、アラーム管理、レポートを統合します。進化する統合のかたちをご覧ください。

www.genetec.com/jp オンラインで詳細を学ぶ

ビデオ監視システム | 入退室管理システム | ナンバープレート認識システム

革新的ソリューション

Genetec

2桁成長を見込んでいる。無線技術と無線技術の組み合わせにより、エンドユーザはセキュリティドアを手頃な価格で入退管理に組み込むことができる。統合が完了すれば、アクセス許可はオンラインでリアルタイムに管理することができる。

生体認証

ASDレポート社の報告によると、世界の生体認証市場は、2014年までに100億ドル規模に達すると見込まれている。

政府部門は、国籍証明や電子パスポート、国境管理案件などで生体認証アプリケーションの採用を主導している。大企業や医療施設も、資産の安全を守る目的から、論理的&物理的入退管理アプリケーションに生体認証技術を採用している。近い将来、ソーシャル・ネットワーク・サイトで生体認証を使用した認証が行われることが予想される。

アップル社iPhone 5sのように、生体認証を使用する入退管理機能がモバイル機器に搭載され始めたため、モバイルベースの生体認証も今後5年間で好業績を達成すると予想される。米連邦捜査局や英国警察当局も、モバイルベースのIDソリューションを装備していくと予想されている。

入退管理カードでも、識別確認を強化する目的で、生体認証やその他の多要素認証情報の活用が開始されている。

現在、生体認証の最も一般的な形態は指紋認証だが、今後数年間で顔認識が最も一般的になる可能性が高い。顔認識技術の導入が増えているのは、精度が高いことに加えて個人を撮影して認識する際に接触することがなく、押しつけがましい点がないからだ。

論理的セキュリティと物理的セキュリティの融合

インターネット接続機器の数は2010年に50億台を突破し、2020年までに



大学は、ホテル等と比べると閉ざされた環境のため、NFC対応入退管理をいち早く採用する可能性が高い

220億台に達すると予測されているため、セキュリティを十分に維持するには、物理的入退管理と論理的入退管理の融合が不可欠だ。

オンライン・バンキングの人気の高まりに伴い、論理的入退管理は、銀行や金融機関にとり重要なインフラになっている。例えば、英国だけを見ても、オンラインバンキングの損失は、2005年の3,760万ドルから2009年には9,670万ドルにまで増大している。

また、合法メールに見せかけたメールを使用して顧客を偽の銀行に誘導するフィッシング攻撃は、同期間で1,700件から5万1,000件にまで増えている。こうした脅威は、インターネット接続が可能な限り、世界中のあらゆる場所で発生する。

英国のある銀行で発生した200万ドルの窃盗容疑で8人が逮捕された最近の事件では、銀行の物理的セキュリティと論理的セキュリティの両方が破られたと言われている。企業は、犯罪は高度に組織化され急速に増えつつあることを認識する必要があり、論理的セキュリティと物理的セキュリティは、どちらかを優先するのではなく、平等に配備することが極めて重要だ。

論理的セキュリティと物理的セキュ

リティの融合は、規制措置と標準化により現実的になる。残念ながら、今日の市場では独自仕様のシステムが存在し、完全な統合の妨げになっている。また、入退管理業界は、侵入検知システム業界や防火機器業界ほど厳しく規制されていない。しかし、ONVIFとPSIAの入退管理の標準規格の発表を受けて、こうした状況は変わっていくと考えられる。

前方に広がる青空

結論として、2013年は入退管理システム・プロバイダにとって堅調な年だった。来年は、さらに安定した年になるだろう。業界は現在の市場戦略に従って拡大を続ける一方、新技術の採用を促進していこう。

入退管理ハードウェアはコモディティ化しつつある。「これは、PSIA、IEC、OSDP、SOAAなどのオープン・スタンダードに向けた取り組みの結果であり、他方、市場からの価格圧力によるものだ。ハードウェアのコモディティ化に伴い、近い将来、サーバ・ソフトウェア・アプリケーションだけでなく、コントローラ・レベルのソフトウェア機能を含むソフトウェアで差別化が図られる」とNedapセキュリティ・マネジメント社セールス取締役アルジャン・ポータ氏は語る。

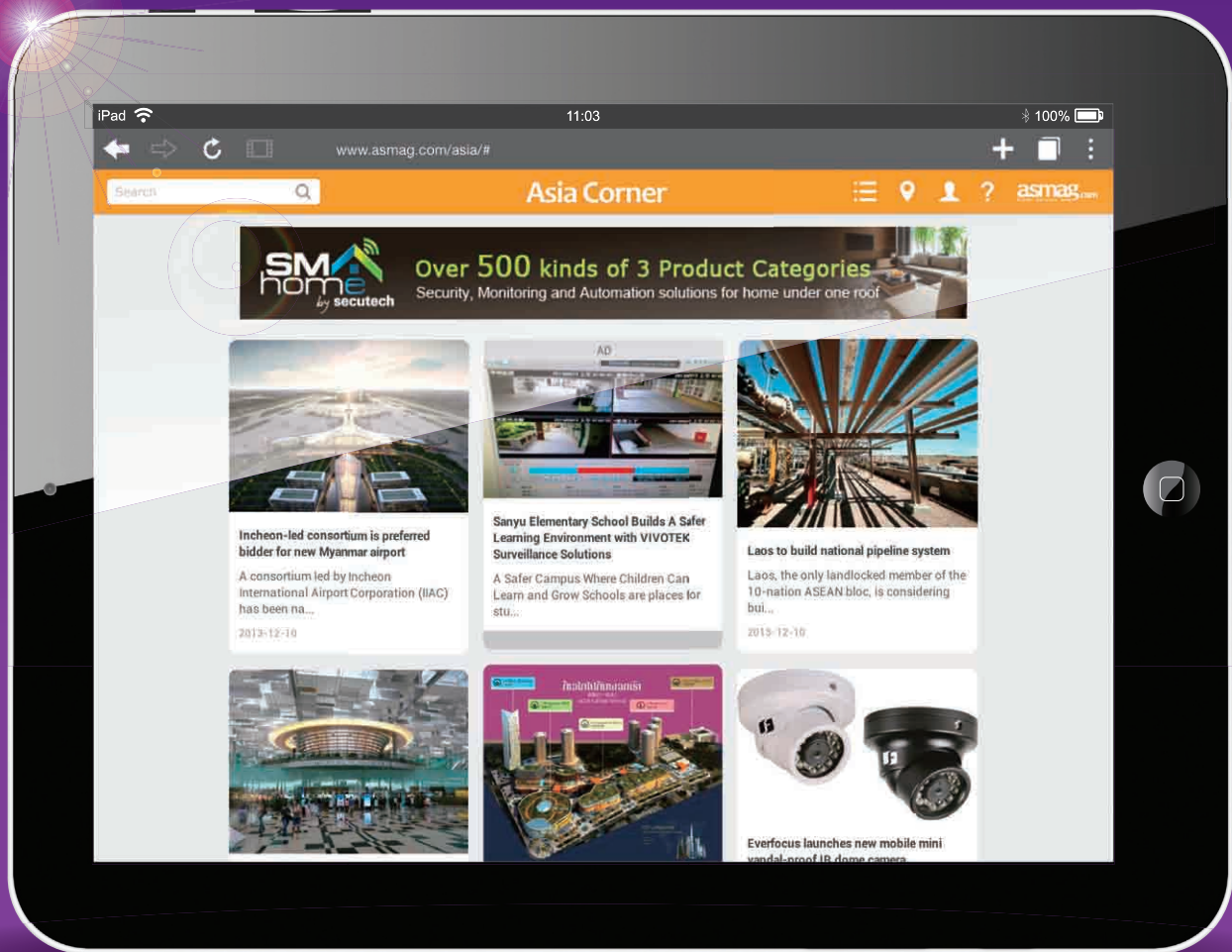


アジア・コーナー

アジア各国のセキュリティや安全専門家向けの新しいデジタルメディアです。

Asia Cornerは効果的な行動を支援します。

- ASEANおよびAPAC各国の最新ニュースやイベントそしてインタビューなどを、a&sグループがお届けします。
- 重要な案件やパートナー企業そして様々な可能性が、PCやタブレット端末そしてスマートフォンからご覧になれます。
- クロスメディアによる情報発信を積極的に展開します。



Print



PDF



e-Magazine



Website

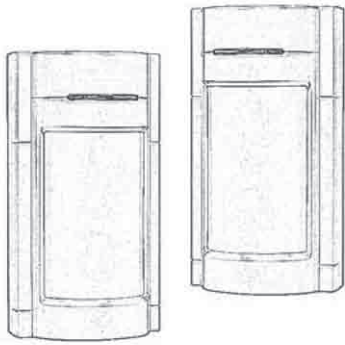


a&s = Total Reading & Sourcing Experience

今すぐ登録を!
asmag.com/asia



オートメーションと 規制の波に乗る 侵入警報



侵入警報は既に成熟した製品だが、侵入警報業界は可能性に満ち活況を呈している。特にこの成熟した市場で成長を促進する新たなビジネスチャンスの風が侵入警報業界に吹き込んでいる。ホームオートメーションと映像検証の規制は、市場を推進する2つの重要な要因だ。

2013年、侵入警報市場は、ホームオートメーション技術が市場にビジネスチャンスをもたらし、ライフスタイルとセキュリティのニーズが原動力になり、特に住宅設備部門で活況を呈した。このような状況において、マーケット&マーケット社は、ホームセキュリティ・ソリューション市場は2012年から2017

年まで年複利成長率9.1%で成長し、2017年までに345億米ドル規模に達すると予測している。

侵入警報市場を活性化する ホームオートメーション

ホームオートメーション市場は勢いを増しており、ホームオートメーション・システムとホームセキュリティ・システム

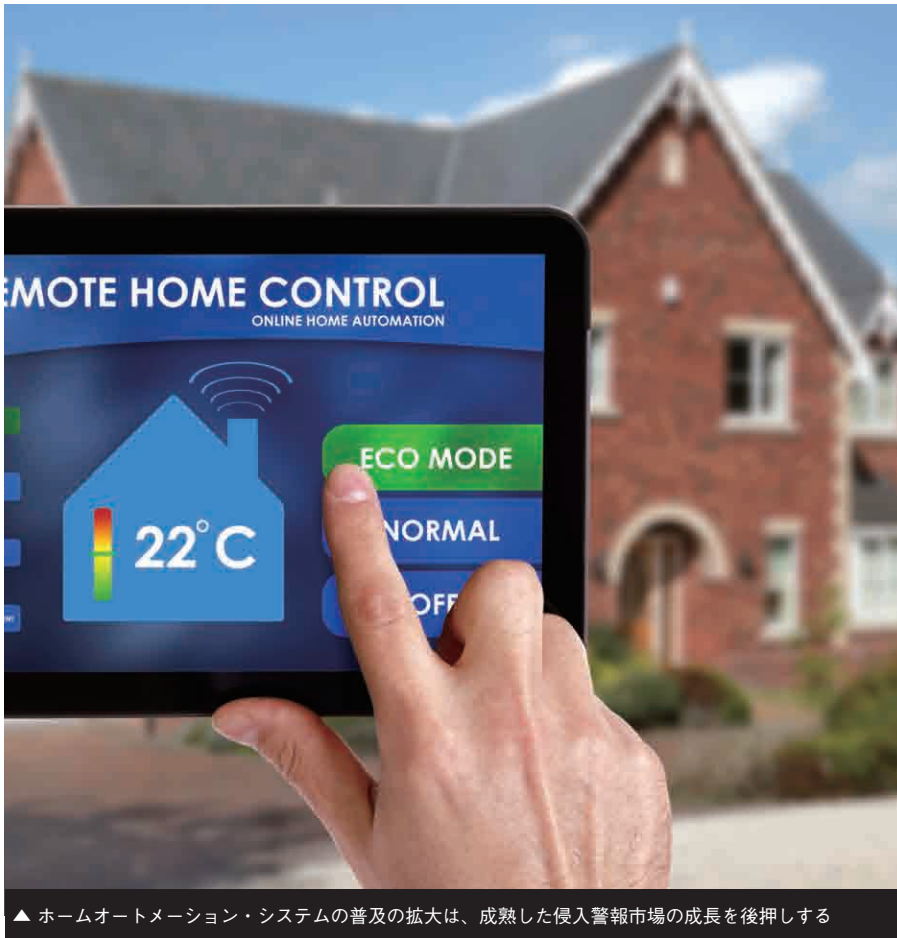
を1つのプラットフォームに統合する成長の潮流により、侵入警報市場が活性化しつつある。IHSグループのIMS リサーチ社は、27億ドル規模の侵入警報市場の40.7%を住宅設備部門が占めると報告している。また、住宅設備部門は、2012年から2017年までの年複利成長率が5.3%という、最も成長の速い業種の1つになると予想されている。

同社の報告書「侵入警報の世界市場」では、米国の住宅セキュリティ部門で、かなり競争が激化していることが強調されている。また、米国の住宅侵入警報製品の普及率は現在20%だが、今後3年間で5~8%上昇すると報告されている。

ホームオートメーション・システムの中核は基本的な侵入警報システムであり、ホームオートメーション・システムの普及の拡大は、成熟した侵入警報市場の成長を後押しする。地域的には、ホーム管理の統合は北米で最も好評を得ており、これが侵入警報製品の住宅設備部門への普及率を高めているとHIS社アナリストは見ている。欧州はわずかな差で2位につけている。欧州では、エネルギー・コストが上昇し、二酸化炭素排出量の抑制が望まれているため、エネルギー管理機能の需要が増える傾向にある。



▲ 様々な理由から映像検証機能を搭載した侵入警報システムの人気が高まり、当事者全員に恩恵をもたらす



▲ ホームオートメーション・システムの普及の拡大は、成熟した侵入警報市場の成長を後押しする

市場の拡大に伴い、かつてはセキュリティだけだったソリューションがコネクテッド・ホームへと変わりつつあり、このことから成長の機会は十分にあるとハネウェル・セキュリティ社マーケティング・コミュニケーション取締役デビッド・ゴトリーブ氏は語る。

タイコ・セキュリティ・プロダクツ社インタラクティブ・セキュリティサービス部門の品管理取締役ステファン・ミーゲル氏も同意見だ。「コネクテッド・ホームの誕生が、近年、住宅警報システムに勢いをつけたことは疑いの余地がない。IP対応機器とアプリケーションがブームになり、消費者が無線接続を利用するようになった結果、自宅所有者が家の中で技術を使用する方法が変わり、侵入警報とホームセキュリティ・システムは、よ

り使いやすい、予防的なツールへと変わった」。

映像検証機能を搭載した侵入警報システムの増加

欧州で侵入警報市場を推進するもう一つの要因は、規制措置の更新だ。欧州規格のEN50131シリーズは、既に保険業界で受け入れられており、英国保険協会はその採用を奨励している。EN50131シリーズは、設備とメンテナンス計画の評点方式を定めたもので、現地法執行機関からの回答の優先順位付けの指針にもなっている。

欧州では、既にEN50131規格が映像検証機能の採用の推進力として作用している。政府当局は、法執行の効率を高める目的から、侵入警報システムに映像検証機能を搭載せよという要求をますます

強めているが、必須機能として搭載する期限は、国によりまちまちだ。例えば、スペイン市場の70%は既に映像検証機能を搭載しており、北欧諸国では50%を超えたと業界の専門家は報告している。

映像検証機能を搭載した侵入警報システムの人気が高まっているが、これには多くの理由がある。しかし、重要な要因の一つは当事者全員にもたらす恩恵だ。映像検証機能は、既存の警報システムでよく発生する誤認警報の問題への対処に役立ち、警察当局はより効果的で迅速な対応が可能になる。また、顧客は罰金を払わなくて済むようになり、プロバイダは經常収益を得られるようになる。

欧州の侵入警報規格は、世界中の侵入警報業界に大きな影響を及ぼす可能性を秘めているが、当面影響は欧州に集中することになる。

結論

侵入警報業界は、ホームオートメーションと映像検証との潮流の後押しを受け、成熟した市場で立ち直りを見せた。その結果、侵入警報市場は健全な様相を呈している。2013年、セキュリティ市場とホームオートメーション市場は、連鎖して成長の速度を上げた。住宅の新築の回復、住宅の改修、さらにはこうした成長の潮流にライフスタイルが貢献したことは疑いの余地がない。また、映像検証機能を搭載することで、誤認警報を減らし侵入警報システムの性能をさらに高めることができる。映像検証機能は、時間の節約と顧客満足度の向上につながることから、市場はこうした新しい機能の採用に敏感だ。

2014年、世界の侵入警報市場は引き続き上向きと予測されているが、既存システムをアップグレードする傾向も見られる。



よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル 代表取締役 佐々木宏至

2014年の幕開けは円安株高と、ある筋の人々にはとても好都合である。しかし、物理セキュリティ業界のディストリビュータ、インストーラに円安はダメージだ。デバイスを国内生産し輸出する企業にとっては好機到来だろうが。昨年末のホットな話題としてAvigilon(アビジロン)社がVideolQ(ビデオIQ社)を買収した。アビジロン社にとってビデオIQ社の持っているオンボード・アナリスティックは欲しいものの最右翼だ。さらにエッジストレージ技術も業界最高水準のノウハウをビデオIQ社は持っている。

技術革新と現実

2010年以降メガピクセルのIP化は当たり前になり、解像度もますます向上している。しかし、目を見張るような技術革新が起きているだろうか？ 残念ながら期待値には程遠い。

イメージャー解像度がVGAからSVGA、またXGAからSXGA、そしてUXGAから1080p、さらに5M、10M、15M、20Mと向上しているが、実際の映像を見て「イマイチ」と思われるだろう。これはレンズ性能が全く追いついていないからだ。テレビ局で使われているカメラのレンズ口径と比較すれば合点がいくと思う。360度カメラの画像をご覧になると、より分かりやすいと思う。周辺部ほど鮮明度が劣化する。中心部は最高の画質だが、肝心の人物の顔は映らない。

この様なことは他にも幾多もある。どんなにデバイス技術が進んでもインプットとアウトプットはアナログと密接だ。映像のインプットはレンズを経由する。音声のインプットはマイクを経由する。映像のアウトプットも一見デジタルだけに見えるが、人の目を考慮したアナログ的なコントロールだ。音声はスピーカを経由して。

単に画質の綺麗さだけを追求していくならば、メーカー間の格差はほとんど僅かだ。品質に関する論議はここでは詳しくはないが、一言でいうと品質を担保できるだけのコストを各メーカーは負担しきれないようだ。その代表的な現象として挙げられるのが、初期不良率がこの10

年で大幅に増加していることだ。

今後の方向性

この数年でローエンドNVR、VMSの品質は大幅に向上している。カメラ100台以上の大規模で高度なセキュリティ要求のソリューションでは、Genetec社などが優位性を保っている。カメラ64台以下で単純な仕様の小中規模ソリューションは草刈り場的な市場となっている。残念ながら、日本の市場ではVMSの、最も売りとなる部分(ワークフローの効率化など)はほとんど評価されない。そのため、Milestone、Genetec、ExacqVisionがどのような特徴を持っているのか誰も知らないし、興味もないようだ。

それを象徴しているのが、機能的にも実績的にもはるかに及ばない、6年連続国内シェアNo.1(ほんまかいな)の某監視ソフトウェアについて、シンプルで使いやすいと言う風説が跋扈していたことだ。要するにチープさとシンプルさとをはき違えているのだが、巧みなマーケティングが功を奏したのだろう。しかし、本質がここにある。日本の利用者はチープな機能でもOKだということだ。ただし、本質的な仕様がチープなので大規模案件では全く使い物にならないことは証明されている。

そんな日本市場だがカメラに対しての要求水準は比較的高いと言える。残念ながら、NVRやVMSの機能だけでは訴求力が弱く、カメラ側から幾つか機能性を提案することが最良と思う。その最有力候補がビデオ・アナリスティックをベースとしたイベント

で、その中で最も基本となるのが、VMD(ビデオ・モーション・ディテクション)だ。

モーション・ディテクション(動体検知)は昔から知られているが、それはビデオ・アナリスティックを基本にしたものではない。単純な動体検知は、ほとんどの場合誤報だらけで実用に耐えない。MPEG4が一般的になってから、モーション・ベクタを基本としたイベントが利用されている。以前よりはマシだが満足いくものではない。

モーション・ベクタ方式のVMD

画像解析技術を背景としたモーション・ベクタ方式のVMDを最初に実装したのがパナソニック システム ネットワークスのi-Proシリーズだった。とにかく、驚くほど高精度なVMDである。この機能はデフォルトでONとなっていた。VMDがONの場合には最大フレームレートが1/2になってしまう。大した問題ではないが、録画は数フレーム/秒だが表示は30fpsには往生した。しかし、i-proのVMDがビデオ・アナリスティックを基本にしたことの証明である。

ビデオ・アナリスティックを実装したカメラとしてはソニーのDEPA、BOSCH社のIVA、アクシスコミュニケーションズ、ハイキビジョン、サムスン、ビデオIQ社などが良く知られている。定義としてVMDがビデオ・アナリスティックの基本中の基本であり、VMDの性能が悪ければ他のどのような検知方式も無意味となる。ラインへの侵入検知でも正確なVMDが必須だからだ。

連載ソリューションコミック



個人行動監視

某食品工場の農薬混入事件は現在原因不明となっている。しかし、極度な濃度の農薬が部分的に見つかることを考えると、誰かが犯人と判断してもそれは合理的だ。この問題の深刻さを、この会社の立場に立って考えると、一言絶望的と言うことだ。一瞬にして会社存続の危機が発生したことになる。

放火犯のほとんどは愉快犯と言われている。私はこれと全く同じではないかと考えている。この事件では消費者以外で最も被害にあっているのは従業員だ。疑いをかけられ、最悪は会社倒産で仕事を失うかもしれない。個人の行動監視は個人を守る手段でもあるのだ。

この工場では生産品のトレーサビリティと、愉快犯の異物混入などを監視するために、生産ラインの各工程と人の配置されるすべてに死角ができないようにカメラを配置している。特に人の監視には自動追尾カメラを大量に採用している。下記は実際に稼働している弊社の事例で製菓系の原料製造をしている。

- 1) 普段は特に監視要員がいて常時監視している訳ではない。
- 2) 顧客から納入した加工原料の一部問題があることを指摘された。

- 3) 製造番号から製造から出荷まで全ての工程が確認された。
- 4) この工程を一年にわたる長期録画保存された監視カメラ映像で確認した。
- 5) 原因は原料搬入時に、誤ってパレットから転落した原料を無理に積み戻した際に外袋に亀裂が入り、湿度により原料に問題が発生したと推測された。これは監視カメラの映像がなかったら誰が関与したかわからなかった。
- 6) また、従業員は監視カメラ、それもレンズが自分の行動を追尾するように動いているため、とても愉快犯的な悪さなど思いもよらないのだった。

製造ライン監視に最適なデバイス

60fpsの高速撮影ができるIPネットワークカメラ

ソニー、BOSCHなどから発売されている。

生産ライン管理コンピュータとの連携
弊社IODEPにより、接点情報はもちろんのこと、RS-232C/RS-422、TCP/IPを経由してメッセージをカスタム定義で対応する。

生産ラインの状態をアラームベースでリアルタイムでの監視が可能。




HIKVISION
Smart-Tracking
自動追尾 標準装備
解像度 1.3M/2M
光学倍率 20倍 / 30倍



HIKVISION
NVR/HD-SDI-DVR/Hybrid-DVR/DVR
256レコーダ -1024カメラまで完全統合
スマホ完全対応 録画再生 / ライブ
さらに音声も完全サポート

最良の侵入監視はデフォルト無表示

1) 一人の保安要員がいる。彼のメインコンソールには何も表示されていない。

数百台のカメラをシーケンス表示して何の意味がある？ 日本はIPセキュリティでもシーケンス表示をいまだに求めてくる。

2) 彼は直前に発生したアラームの報告書を作成していた。

ほとんどの報告書は保安要員が勤務時間内に書き上げている。(もちろん、PCのDBに専用のCRMを使用して)

3) けたたましいパトライトの点灯と音とともに、メインコンソールにポストアラーム、プリアラームが表示されている。

このけたたましいパトライトの点灯と音は承認操作でクリアされる。

ポストアラームとはライブ表示を意味する。プリアラームはVMDが検知したタイミングに対して1~300秒前を繰り返し表示している。

4) システムはリアルタイム・モーショントラッキングにより次に関連するカメラ映像をサブコンソールに表示させた。

このシステムで使用している、VMS (Genetec社 Security Center) にはターゲットの移動方向性に関連したカメラを動的に呼び出すことが可能。

5) ターゲットをVMDでキャッチした

PTZカメラはターゲットを自動追尾し、ターゲットは鮮明に映し出された。

オート・トラッキング機能を備えたHIKVISIONのPTZカメラは倉庫に入り込んだターゲットを数10秒にわたり追尾し続けた。

6) 保安要員は構内放送を使用してターゲットに警告を与え、警備要員に指示を出した。

最もターゲットの全体像をキャッチしたスナップショット数枚を警備要員のスマートフォンに転送。

上記は侵入検知を主としたシステムでは理想的なワークフローを提供する。

このシステムの説明ではカメラでの検知のみを取り上げているが、より強固で検知力の高いパッシブIRセンサと連動することで確実にターゲットを捕獲する。上記をショッピングモールで運用した場合を想定して、さらに詳しく解説する。上記の動作は一部を除いて営業時間中以外の動作となる。では、営業時間中はどうのような運用になるだろうか？


営業時間中に侵入モードで運用した場合はアラームのオンパレードになってしまう。この場合はVMS側でVMDイベントをスルーするように変更する。これらはスケジューリング管理可能である。営業時間中は群衆管理が基本となる。しかし、一台のカメラでVMDと群衆管理をスケジューリングして使うのはほとんど不可能である。次は群衆管理へ



Genetec社Security Center mobileでご利用いただけます。詳しくは <http://www.javatel.co.jp> で。



HIKVISION
Smart-Tracking
自動追尾 標準装備
解像度 1.3M/2M
光学倍率 20倍 /30倍



Genetec 社 Security Center
世界最高レベルのVMSワークフロー **OMNICAST**
HID マーキュリー AXIS をサポートする入退管理 **SYNERGIS**
自動車ナンバープレート読取 **AUTOVU**



Copyright © 2013 Javatel inc.
無断転載厳禁 ドコかめ®

制作 神田 森莉

群衆管理

ショッピングモール、デパート、イベント会場など人の集まるエリアの監視業務は群衆管理用のワークフローが必須だ。

ある大規模デパートの例、地下二階、地上十二階建てエスカレータはフロア単位に8機、エレベータは6機 監視カメラはエレベータ出入口、エスカレータ周り、非常階段回り、トイレ周辺、その他主要通路など274台が設置されている。営業時間後は侵入検知が主体だが営業中は群衆管理による最適な警備員配置をコントロールする。

- 1) 監視カメラは画像解析され群衆の滞留状態が過度になるとアラームを発報、VMSはスクリーンにはポストアラームとプリアラーム(最大3分前から)を表示。
- 2) 保安要員はランダムに発報される群衆画像を確認する。
- 3) 3Dマップに表示された、群衆の全体状況を確認しながら、最適な警備

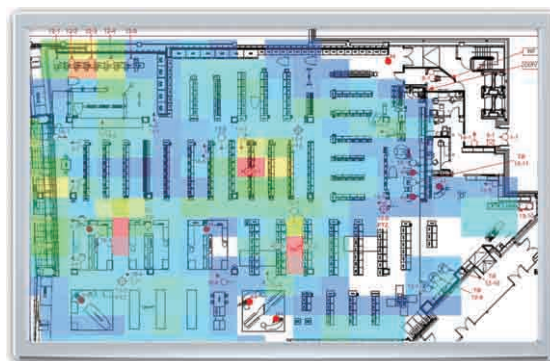
要員の配置を検討し、配置指示する。

- 4) また、宝飾店など高額商品のテナントに対しては顔検知や徘徊検知など各種のアラームイベントで保安要員に注意喚起を促す。
- 5) また、死角になりやすい場所にもカメラを配置し、置き去り検知アラームで不審物探索を徹底する。
- 6) いずれのアラームもポストアラームとプリアラームで検知前と検知後の確認が瞬時に行えることが大前提となる。

アナリストック・ソリューションとして弊社ではAgent社の製品を積極的に提案サポートしている。

Agent社のソリューションはGenetec社のVMSとの完全な統合を提供している。

過剰混雑を回避し、安全上の危険を防止するために、指定されたエリアでは、乗客の密度を検出。囲まれた領域に入る人数が推奨される限度を超えないことを確実に管理する。



SECURITY SHOW

2014年3月4日(火)~7日(金)

東京ビッグサイト

出展いたします。小間番号:SS3215

サンシステムサプライ社と共同出展です。

株式会社ジャバテル

www.javatel.co.jp

専門サイト nvr.jp ipcam.tv

Javatel

Video Intelligence

〒530-0041 本社 大阪市北区天神橋2-北1-21 八千代ビル東館3F

TEL 06-6354-0100 FAX 06-6136-1155

secutech

2014年3月19~21日
台湾 台北市 南港世界貿易センター

www.secutech.com



SECUTECHは国際バイヤに 3つの価値を提供します

HDソリューション+SMAホーム=
新たな出展社、新しい技術、新しい適用



- * HD solutionsは、アナログHD、IP-HD、HD-SDIです。
- * SMA homeは、ホーム・セキュリティ、モニタリング、自動化そして娯楽用製品のライン・アップを披露するホーム・エリアの初企画です。
- * 85%以上の出展社が新製品をSecutech2014で発表します。



3月19日から21日は、
2014年最初のアジアでの情報収集の機会です



お問い合わせは下記までどうぞ
ASJ合同会社
TEL:03-6206-0448 FAX:03-6206-0452
Eメール:komori@asj-corp.jp

 messe frankfurt

スマートホーム専門家向けの新しいデジタルメディア
mysMAhome.com



Security, Monitoring and Automation Solutions for home

a&s誌とasmag.comでお届けします

SMAhomeとは?

- ホームセキュリティに関する最新ニュースや製品そしてキーマンを紹介します。
- 警報表示機器業者や通信技術者、ケーブルTV企業やホーム・オートメーション機器販売業者に、OEM/ODM企業をご紹介します。
- PCやタブレット端末そしてスマートフォンからご覧になれます。

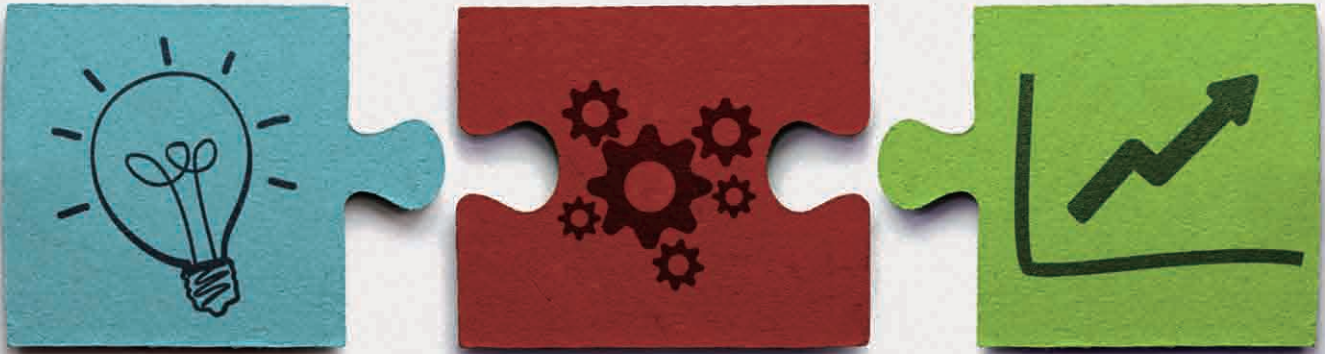


さあ、今すぐご覧ください!
mySMAhome.com



a&s = Total Reading & Sourcing Experience

スマートホームで重要となる規格



規格は、市場の技術面での発展と成長において非常に大きな役割を果たしている。また、製品価格と機能とで激しい競争が展開されている市場では、エコシステム全体の強靭性と複数ベンダによる可用性は、複数企業が参入できるという状況を創成するためには不可欠である。

規格化は、様々なベンダの製品とソリューションについて、ユーザ体験に基づいて構築される。スマートホームには、信号処理および通信などで幾つもの規格が存在する。

本誌では各規格の概念と今後の展開を理解するために、新たな連載記事としてSMAhome(スマホーム)を開始し、今回はそれぞれの規格を紹介する。なお、今回の記事はKNX協会とA-Wave連盟そしてZigBee連盟からの寄稿である。

KNX協会

KNX協会は、これまで20年以上にわたり、国際規格ISO/IEC14543-3となったKNX仕様とその出版を通して規格化について尽力してきた。そして、エンドユーザが、数多くの企業やアプリケーションの提供している、認定を受け互換性を有するKNX機器の広範なポートフォリオから自由に選択できる可能性も追求してきた。

各社独自の設計と設計ツールであるETSを組み合わせることで、家庭およびビル管理向けの世界では、KNXが「一団」の名称となってきた。

無線と有線：KNXの情報は有線または有線IPインターネット、あるいはKNX 868 MHzのRFソリューション経

由でツイスト・ペア・ネットワーク上で転送することができる。これにより、ビル設計者は幅広い範囲のメディアを無線あるいは有線から選択することができる。このことから、ネットワーク制御装置が導入された住宅や建物の割合は、今後10年で伸長すると予測している。特に家庭用分野での無線技術の使用は、KNXが提供する次期ETS5により、増大することが期待されている。また、より広範なRFの使用に関心を持つ有力な構築者は、設計と設定プラットフォームに対して期待している。KNXは発足当時こそ欧州企業中心だったが、今やアジアや豪州そしてラテンアメリカまでKNX市場は世界中に急速に広がり始めてい

る。これらは、インターネット時代を含めて今後も進化し続けるだろう。



▲ジョースト・デマレストCTO

Z-Wave連盟

規格化により、豊富な資料と開発者トレーニングそして開発者会議や大規模な開発やテストツールなどの多岐にわたるサポート方法で、開発者をサポートすることが経済的に可能となる。

そして、競争と供給が複数のメーカーに及ぶことで、エンドユーザは標準化から特典を得ることができる。これについて、Z-Wave連盟では、200社超の企業が提供する900以上の認定製品の中から消費者が選択できることを指摘している。一例として、彼らは、価格や機能そして販売方法など広い範囲で、Z-Waveに準拠した相互運用が可能な照明制御製品を選択することができる。Z-Wave連盟は家庭分野と簡単な商業分野に特化してい

る。他分野は対象としていない。当連盟は無線と相互運用可能なソリューションをそれらの専門業者およびDIY販売チャネル向けに提供している。

Z-Wave連盟はソリューションの一つとしてZ-Waveを使用することで北米の住宅管理会社の約90%の無線住宅管理市場の最大のシェアを有している。

全般的に見て、世界の家庭用管理市場は有望である。その中でも個人用セキュリティと省エネ、快適さと生活支援が特に有望である。

南アメリカと中国そしてインドでの成長は非常に有望だが、既に動き出している北米市場では、AT&T社やベライゾン社、ADT社やシュラージ社、エール社やハネウェル社、ヴィヴィント社やロウズ・

スタンブル社そしてアマゾン社などによる大々的な広告展開により、北米消費者はホームコントロール・ソリューションの導入効果を実感している。



▲マーク・ウォルターズ会長

ZigBee連盟

ZigBeeは、世界規模とオープン、省電力と無線メッシュ・ネットワークの規格である。そして、400社以上のメンバーにより策定されている。対象としては、ホームオートメーション、ホームセキュリティ、スマートメータ、ビルオートメーション、ヘルスケア・モニタリングなど様々なアプリケーション用に提供している。

我々はエコシステムのあらゆる分野におけるマルチベンダを擁し、世界中の4000万以上のスマートメータで実証された製品やサービスを提供している。コムキャスト社やタイムワーナー・ケーブル社そしてロジャース社などの巨人企業が、製品を全米各地でホームコントロール/セキュリティシステム用に提供している。

KNXは主に自動化アプリケーションの構築に焦点を当てている、1990年代の配線技術だが、これは複雑な技術であり、エンジニアリングや製造そして設置するには非常に高価だ。また、Z-Waveは無線ではあるが、大規模ネットワーク




▲戦略マーケティング担当理事
ライアン・マレイ氏

や競争力のある価格設定や供給会社の選択そして製品特徴や単一製品を世界市場に供給したい世界的なメーカーには適していないかもしれない。

採用率と低消費電力そして規格化された無線技術は飛躍的な成長を経験している。

デバイスを可能な限り広い範囲で接続して、生活環境や仕事環境で人々に多くの制御を提供する必要性により、この分野は成長している。

巨大なスマートグリッドの展開だけでなく、世界中の家庭や建物などでのエネルギー管理を改善するため、我々は社会基盤の構築を考えている。それは、エネルギー管理を改善し、快適さを向上させ、便利さとセキュリティそして多くの技術革新を創成するためだ。 



プラットフォーム急増が 消費者の関心を喚起

最近のパークス協会の調査によると、消費者が希望するホーム機能は、伝統的な安全性とセキュリティ機能を挙げている。リアルタイムおよび携帯機器への通知機能は、煙やガスまた水漏れ検知器などの伝統的なセキュリティ機能を実際に強化した。エネルギー管理機能すなわち電力使用量の監視、電気使用量を最小限に抑える自動制御機器の調整などが、今回の調査でセキュリティ機能を上回った。

■寄稿：パークス協会

幾つかの市場潮流が消費者の採用を左右している

- セキュリティへの関心の高まり
- スマートフォンやアプリの増加
- 代替エネルギー供給への関心
- これまでのエネルギーコストの上昇
- 高齢化

企業はこの機会を認識し、住宅管理者やエネルギー管理、セキュリティ・サービスや家庭構成員向けシナリオを含めた家庭用ネットワークのために、自社の戦略を策定している。それぞれの利用は、

より強力な顧客との連絡路として捉えられている。

特定機器とその価格について尋ねられた時、消費者は、セキュリティ関連機器を最高ランクのホーム管理機器として購入する可能性がある。このことは、54ドルで何を購入するかという実験を米国市場で実施した時には、照明制御モジュールと電気器具のスイッチはセキュリティ/安全機能よりもあまり魅力がなかった。

驚くことではないが、具体的な使用事例のアピールは、市場区分と同様に、市

場投入までの選択肢を変化させる。例えば、www.energy.euによると、欧州で電気代が最も高いデンマークでは、エネルギー管理の大きな選択として設置事例を提供している。

動体センサやドア/窓センサ、ネットワークカメラなどのセキュリティシステムは、接続されている製品の優れた基本パッケージとしての役割を果たす。侵入検出するために使用するセンサは、所在または動作基準を決定するために使用することができる。これらの入力、住居

に誰もいない時に温度設定を下げ機器をオフにすることで、エネルギー消費低減用に使用することができる。

メーカーは、個々の接続製品を独自のアプリで起動している。ユーザ体験は、複数の製品を家に持ち込む時には理想的とはならない。これらの製

品をスマートホームのプラットフォームに統合することは、システムの機能性を高め、それらの個々の製品でシステム機能を拡張する。

例えば、メーカーが個別に電子ドアロックと関連アプリを販売することができるが、ユーザ体験では、電子ロックがスマートホーム・プラットフォームに統合された時に飛躍的に改善され、より大きなホーム管理とセキュリティシステムの一部となる。

そのため、スマートホームのプラットフォームは、シームレスなユーザ体験を提供する上で重要な役割を果たす。成功したプラットフォームは、完全に、完全に統合されたエクスペリエンスをユーザに提供し、新しい製品や機能を完全に統合することができなければならない。



▲ホーム管理&エネルギー調査担当理事
トム・カーバ氏

プラットフォームは、異なるホームネットワーク技術を使用している場合でも、これらの新しい機器を統合することができなければならない。スマートホーム内で生成される膨大な量のデータを考えると、プラットフォームは勤勉で、

デジタル堅牢性とプライバシー保護の高い基準を提供する必要がある。

この市場セグメントでは、特に初期の段階では、信頼とブランドは非常に重要である。消費者は、各分野の業界で定評があるベンダとの取引を行うことを好む。その際、ブランドは第一世代の製品やサービスの購入に関連した複雑な意思決定プロセスを簡素化するのに役立つ。個人情報に関する高い評判がある企業やブランドは消費者の個人情報とセキュリティに対する懸念を和らげるために最善の役割を担うことができる。

家庭の安全とセキュリティ製品およびサービスは十分に理解し、消費者に受け入れられている。欧州でのホームセキュリティ企業は、例えば、リモートでセキュリティシステムを監視し制御する

ために、ユーザにスマートフォン、タブレットまたはコンピュータを使用するように消費者が双方向サービスを含むようにと、顧客と日々の対話を拡張することができる。そして、セキュリティシステムの能力を拡張するシステムとの相互作用を増加させることにより、消費者との関係を強化する。

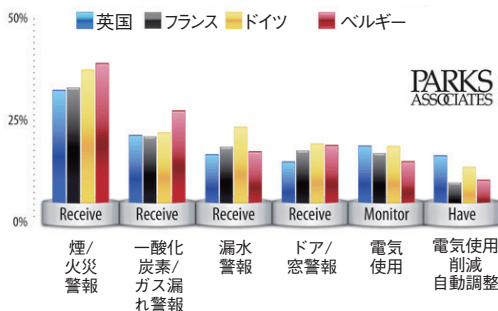
ホームセキュリティ企業も広範な市場を牽引して有利な立場にある。多くの場合、セキュリティ企業は、既に市場での大規模な販売とサービス力を意味し、効果的な市場参入モデルとサービス組織を持っている。ちょうど米国のように、セキュリティチャンネルは、既存のホームセキュリティの顧客を超えてホーム管理を拡張するために、販売チャンネルの優位性を使用することができる。既にセキュリティ監視サービスのための定期的な手数料を支払っている消費者は、わずかな支払の増加でエネルギーの節約と利便性を通して重要な価値を見るホーム管理においては理想的な標的である。

ホーム管理は市場では新しく分野で、消費者の関心も低い。また、スマートホームは、多くの価値提案が、30秒セールストークに適合し、それ自体を販売していない単独のキラアプリケーションを持っている。対面販売のアプローチは、消費者がシステムと対話し質問をすることにより、消費者の意識の欠如を克服するのに理想的である。販売代理店においても、詳細にシステムが提供する多くの価値ある提案を説明することができる。そのため、セキュリティシステムやホーム管理構成機器を追加することは、自然な成り行きである。

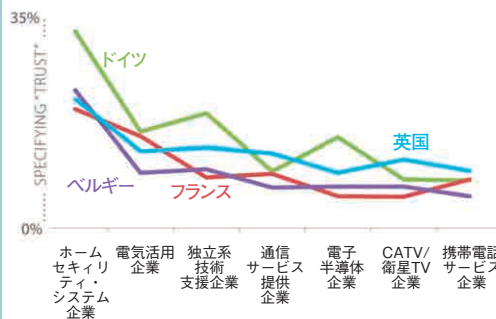


家庭に接続したい機能

「PCや携帯機器やタブレットなどを使うことで、重要と考える機能を3つあげてください」
特定国での住居の機能に関する調査



家庭モニタリング・サービス会社の評価
特定国での住居の通信会社に関する調査



1月

Intersec 2014

会期：2014年1月19日 - 21日

会場：ドバイ国際展示会議場
アラブ首長国連邦 ドバイ

URL：www.ifsecindia.com

2月

Safe Secure Pakistan

会期：2014年2月25日 - 2月27日

会場：カラチ展示会場
パキスタン・イスラム共和国 イスラマ
バード市

URL：www.safesecurepakistan.com

Secutech India

会期：2014年2月27日 - 3月1日

会場：バンドラクルラ複合体 ムンバイ都市圏
開発公社
インド共和国 ムンバイ市

URL：www.secutechindia.co.in

3月

Security Show 2014(第23回)

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/ss

Japan Shop 2014

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/js

建築・建材展 2014(第20回)

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/ac

第6回LED Next Stage 2014

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/ld

リテールテックJAPAN 2014

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/rt

NFC & Smart World 2014(第3回)

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/nf

ライティング・フェア2014

会期：2014年3月4日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/lf

フランチャイズ・ショー 2014(第30回)

会期：2014年3月5日 - 7日

会場：東京ビッグサイト

主催：日本経済新聞社

URL：www.shopbiz.jp/fc

Secutech International 2014

会期：2014年3月19日 - 21日

会場：台北世界貿易センタ南港展示会場

台湾 台北市

URL：www.secutech.com

4月

ISC West

会期：2014年4月2日 - 4日

会場：サンズ展示会議場
米国 ネバタ州 ラスベガス市

URL：www.iscwest.com

MIPS

会期：2014年4月14日 - 17日

会場：全ロシア展示会場(V.V.C)

ロシア連邦 モスクワ市

URL：www.mips.ru

5月

IFSEC South Africa

会期：2014年5月13日 - 15日

会場：ギャラハー会議場

南アフリカ ヨハネスバーグ市

URL：www.isfseca.com

6月

IFSEC INTERNATIONAL

会期：2014年6月17日 - 19日

会場：エクセル展示会議場

英国 ロンドン市

URL：www.isfsec.co.uk

Secutech India - Delhi

会期：2014年6月26日 - 28日

会場：プラガチ・メイダン会場11
インド共和国 デリー市

URL：www.secutechindia.co.in

ロジテックINAソリューションズ、高画質・監視録画ソリューション紹介セミナーを開催

IT機器有力企業であるロジテック・グループのロジテックINAソリューションズは、監視カメラシステムのシステム構築企業および販売店を対象とした「小規模チャンネル向け高画質・監視録画ソリューションご紹介セミナー」を、2013年12月13日に秋葉原UDXカンファレンスで開催した。

本セミナーは、多チャンネル・ソリューションで培った操作性や機能性を小規模チャンネルでも展開しているルクレ社のアロバビューを、一般オフィスで多くの実績のあるロジテックINAソリューションズのネットワーク・ストレージと一体化して、監視カメラシステムの映像録画ユニットとした利用できるメリットを詳しく紹介する

内容だった。

IPネットワークシステムによる映像監視ソリューションは近年、急速に普及し始めているが、従前のアナログシステムを中心に従事しているチャンネル・プレイヤーにとっては、まだ敷居の高い要素がある。特にネットワークシステムやストレージそしてソフトウェアに関する実務経験の少ないことで、積極的に取り扱うまでに至らないチャンネル・プレイヤーの大きな課題である。

一方、小規模システムに移行し始める監視システム市場で、いかに確固たるパートナーを確保し支援する体制構築は、ロジテックINAソリューションズとルクレにとっても喫緊のテーマである。そのため、



本セミナーは単にシステムやソリューションを紹介するプライベートショーではなく、今後の映像監視ビジネスを連携して展開する提案型そして支援内容を理解してもらったイベントだった。

ロジテックINAソリューションズとルクレは、2014年から密度の高い支援システムをスタートさせて、新しいチャンネル作りを積極的に推進する考えである。 **AKS**

ケーティーワークショップ、ICE11を開催

マイルストーン・システムズ社のX-Protectの有力サプライヤーであるケーティーワークショップは、2013年11月8日に東京国際フォーラムでIP監視カメラシステム展示会(ICE)を開催した。今回はネットワークカメラ企業5社とネットワーク関連機器企業3社が協賛して参加した。

ネットワークカメラ関係では、アクシスコミュニケーションズは、2013年に発表した注目製品を中心に紹介していた。Bosch Security Systemsは、固定ドームカメラとPTZカメラの新製品そしてiSCSI録画ソリューションを展示していた。キヤノンマーケティングジャパンは、手のひらサイズのネットワークカメラVB-S30Dなど4機種種のデモ展示していた。赤外線カメラのリーディングカンパニーであるフリアーシ

ステムズジャパンは、IPネットワークに対応した監視用赤外線サーマルカメラを出展していた。そしてDYNACOLOR JAPANは、組込Windows7搭載のNVR A08T/A24Tとマルチストリーム・リアルタイムIPカメラWシリーズ(2Mピクセル/3Mピクセル)、ウルトラWDR IPカメラ Xシリーズを展示していた。

一方、ネット枠関連機器では、日本ヒューレット・パッカーは、最新のインテル®「Haswell」アーキテクチャを採用したXeon® E3-1200v3搭載で、さらにパワフ

ルに使いやすく進化したワークステーションHP Z230SFFをデモ展示していた。KISCOは、同軸ケーブルを利用して、デジタル映像伝送と電源供給を可能にするネットワークカメラ向けの最適ソリューションを紹介していた。初参加のSCSKは、8ポート全てギガビットイーサネットインタフェースを搭載しており、一部のポートは、IEEE802.3at(PoE Plus)である最大30Wまでの高出力給電規格に対応しているヤマハ製スマートL2スイッチ『SWX2200-8PoE』を展示していた。 **AKS**



ソーラーパーク周辺警備にFLIR SRシリーズを導入

監視対象区域

ルーマニアのセビスに新設されたソーラーパークはルーマニア最大で、欧州でも有数の規模を誇る。パーク面積は200ヘクタール、太陽光パネルは約72,000枚で、年間発電量は15MW、約10万人分のエネルギーを供給できる。敷地は、囲まれた2つのエリアからなり、敷地境界は全長約2.1km。このソーラーパーク全体を監視することが不可欠だった。

導入機器

システム構築を担当したオメガ・セグリダッド社は、ソーラーパークの周辺警備に赤外線サーマルカメラFLIR SRシリーズの導入を決定した。SRシリーズは昼夜を問わず、あらゆる環境条件で高品質な熱画像を提供する。主に使用したのは、33mmレンズを使用した解像度320×240ピクセルのSR-313だった。他に、19mmレンズで解像度320×240ピクセルのSR-324も採用した。

SRシリーズは映像解析に最適な高コントラスト映像が撮影できるモデル。さらにこのプロジェクト用に、スペインのダヴァンティス社が映像解析ソフトウェアを提供した。そして、合計22台のカメラを設置することにした。カメラ1台で平均190メートルを警備する計算だ。

監視技術

オメガ・セグリダッド社は通常、周辺警備を依頼された場合CCTV監視カメラシステムと赤外線カメラシステムと、2つの方式を顧客に提案する。CCTV監視カメラシステムは有効な警備・監視方法だが、完全

な暗闇では役に立たない。そのため、照明を新たに設置し、夜間でもある程度の距離を監視できるようにしなければならない。

同社は、今回赤外線サーマルカメラを採用した理由として「赤外線カメラは、従来のCCTVカメラよりも監視距離がはるかに長いため、設置台数が少なく済む。つまり、設置台数が少ないほど、問題も少なくなる」ことを挙げた。

優れたコストパフォーマンス


赤外線サーマルカメラの価格はCCTVカメラよりも高価だが、設置台数が少なく済み、カメラ購入費用を削減できる。また、それに伴うカメラの運転設備や映像信号の送信設備の費用も削減できる。さらに、設置工事費用もカメラ台が少ない分抑えられる。そして最大の特長は、赤外線カメラは昼夜を問わず常に高精度な映像を得ることができ、照明設備が一切不要なことだ。

オメガ・セグリダッド社による電力消費の概算では、CCTVカメラは赤外線カメラよりも1.5倍の電力を消費する。具体的な例で試算すると、総距離が60km

から120kmまでの距離の監視に必要な台数は、CCTVカメラは2台で赤外線サーマルカメラは1台。この段階でシステム全体のコストは同等だ。しかし、総距離が120kmから180kmまでになると、CCTVカメラは3台必要だが、赤外線サーマルカメラは1台で済み、総費用はさらに経済的になる。つまり、監視距離が長くなるほど赤外線サーマルカメラのコストパフォーマンスが高くなる。

赤外線サーマルカメラの導入効果

オメガ・セグリダッド社がセビスのプロジェクトで赤外線サーマルカメラを採用した理由は、コストパフォーマンスの高さだけではない。赤外線カメラは精度が高く、アラームの誤作動が少ないという利点がある。管制室の操作担当者にとって、作業量とストレスを増大させるアラームの誤作動の防止は非常に重要なことだ。例えば、CCTV監視カメラでは、車のヘッドライトがアラームの誤作動の原因となることがあるが、赤外線サーマルカメラは光の影響を受けないため、アラームの誤作動が全くなくない。

他にも、CCTVカメラでは霧が発生した状況での監視は不可能だが、赤外線サーマルカメラでは、霧のなかでも問題なく監視ができることが挙げられる。 



全長約2.1kの敷地境界を22台のカメラで監視

レノボ・ジャパン、映像監視システムのストレージ分野に参入

世界的なPCメーカーである同社が、映像監視システムのストレージ分野に参入した背景には、世界規模でのエンタプライズ製品(サーバー、ストレージ)の強化を目指していること、2012年8月1日にEMC社との戦略的提携の発表、2013年1月3日に合併会社LenovoEMC社の設立、マイクロソフト社OSのWindows XPのサポートが2014年4月終了への対応があり、PCと扱いやすいエントリNAS製品を同時に提案できる企業は同社だけという自負がある。

同社NAS製品の特長

- ・ HDDもサポート対象となる3年間の標準保証
- ・ ファイルシェアとiSCSIの同時サポート
- ・ Nearline SATAドライブ採用による高信頼性
- ・ 定評のあるEMC LifeLine OS
- ・ 真のエンタプライズクラスの拡張性を確保
- ・ 完全無償のパーソナルクラウド

EMC LifeLineの豊富な機能

- ・ ネットワーク上の複数のNASをブラウ

ザ1カ所から一元管理

- ・ アイコン表示で直観的な設定・管理が可能
- ・ コピージョブによるスケジュール・バックアップ
- ・ クラウド連携(LenovoEMC Personal Cloud, mozy, Amazon S3)
- ・ AD(Active Directory)連携

サポート体制

- ・ 電話とウェブ・メールによる、ハードウェアとソフトウェア設定の基本的なトラブルシューティング

- ・ サポート用ウェブで、製品のチュートリアル、詳細な設定手順、FAQ、ファームウェア・アップデートのダウンロードなどの提供

- ・ 専用電話受付窓口でのLenovoEMCサポートライン

サービスプラン

■デスクトップ製品向け

保証期間が5年間24時間365日のテクニカル・サポートの選択が可能

■ラックマウント製品向け

エンハンスドプランとプレミアムプランのいずれかを選択できる。どちらのプランでも LenovoEMC のテクニカル・エキスパートによる24時間365日のサポートと翌営業日のオンサイト・ハードウェア・サービスを受けることができる。

プレミアムプランでは、4時間のオンサイト・サービスが追加され、業務を確実に継続できる戦略スペア・キット(戦略部品キット)を含む。

移行後のNASの活用

- ・ 社内バックアップ装置としての利用
- ・ 法人のオンライン・バックアップ subscription単価は50-60ドル/月。
- ・ 費用面の有利さとアクセスの快適さのあるNAS、RAIDやスナップショットも安心。
- ・ 拠点間のデータシェアに利用可能。
- ・ モバイル環境をサポートしているため、外出先でのタブレットやスマートフォンからのアクセスでビジネスでの活用。



	Lenovo Image IX2-26AY	Lenovo Image IX4-390Q	Lenovo EMC PX2-390Q	Lenovo EMC PX4-390Q	Lenovo EMC PX6-390Q
ユーザレベル	SMB/ホーム 小規模オフィス	小規模オフィス 中規模オフィス/リモートオフィス	小規模オフィス 中規模オフィス/リモートオフィス	小規模オフィス 中規模オフィス/リモートオフィス	小規模オフィス 中規模オフィス/リモートオフィス
ドライブ容量	2TB / 4TB / 8TB / 16TB (Diskless)	4TB / 8TB / 12TB / 16TB (Diskless)	2TB / 4TB / 8TB / 16TB (Diskless)	4TB / 8TB / 12TB / 16TB (Diskless)	8TB / 12TB / 16TB / 24TB (Diskless)
接続ドライブ(ベイ)数	2 x SATA II	4 x SATA II	2 x Nearline SATA	4 x Nearline SATA	8 x Nearline SATA
RAIDタイプ 出荷時構成 RAID0は5から可	0 / 1 / JBOD	0 / 5 / 10 / JBOD	0 / 1 / JBOD	0 / 1 / 10 / 5 / 15 = Hot Spare / JBOD	0 / 1 / 10 / 5 / 15 = Hot Spare / 6 / JBOD
プロセッサ	Marvell 6282 CPU 1.6GHz	Marvell Armada XP 1.3GHz, dual-core	Dual Core Intel Atom D525 1.8GHz	Intel Atom Dual Core CPU at 1.8GHz	Intel Atom Dual Core CPU at 1.8GHz
メモリー	256MB	512MB	2GB	2GB	2GB
外部インターフェイス	USB 2.0 x 1 / GbE x 1	USB 2.0 x 1 / USB 2.0 x 2 / GbE x 2	USB 3.0 x 1 / USB 2.0 x 2 / GbE x 2	USB 3.0 x 1 / USB 2.0 x 2 / GbE x 2	USB 3.0 x 1 / USB 2.0 x 2 / GbE x 2
ADサポート	ユーザ/グループ	ユーザ/グループ	ユーザ/グループ	ユーザ/グループ	ユーザ/グループ
メディアサーバ	UPnP AV / iTunes / DLNA	UPnP AV / iTunes / DLNA	UPnP AV / iTunes / DLNA	UPnP AV / iTunes / DLNA	UPnP AV / iTunes / DLNA
監視カメラサポート	標準1カメラ max 4	標準1カメラ max 8	標準1カメラ max 16	標準1カメラ max 16	標準1カメラ max 16
データ複製	コピージョブ(CIFS / rsync)	コピージョブ(CIFS / rsync)	コピージョブ(CIFS / rsync)	コピージョブ(CIFS / rsync)	コピージョブ(CIFS / rsync)
クラウドストレージ	LenovoEMCパーソナルクラウド / EMC Atmos / Mozy / Amazon S3	LenovoEMCパーソナルクラウド / EMC Atmos / Mozy / Amazon S3	LenovoEMCパーソナルクラウド / EMC Atmos / Mozy / Amazon S3	LenovoEMCパーソナルクラウド / EMC Atmos / Mozy / Amazon S3	LenovoEMCパーソナルクラウド / EMC Atmos / Mozy / Amazon S3
保証期間	3年間	3年間	3年間	3年間	3年間

Lenovo EMC PX4-300R	Lenovo EMC PX12-400R	Lenovo EMC FX12-450R
中規模オフィス/リモートオフィス	中規模オフィス/データセンター	中規模オフィス/データセンター
4TB / 8TB / 12TB / 16TB (Diskless)	4TB / 8TB / 12TB / 16TB / 24TB / 36TB / 48TB (Diskless)	4TB / 8TB / 12TB / 24TB / 36TB / 48TB (Diskless)
4 x Nearline SATA	4(12) x Nearline SATA	4(12) x Nearline SATA
0 / 1 / 10 / 5 / 15 = Hot Spare / JBOD	0 / 1 / 10 / 5 / 15 = Hot Spare / 6 / JBOD	0 / 1 / 10 / 5 / 15 = Hot Spare / 6 / JBOD
Intel Celeron E1500 Dual Core @ 2.2GHz	Intel Core i3 3.3GHz Ivy Bridge Processor	Quad-Core 2.5GHz Intel Ivy Bridge Xeon
2GB	4GB	8GB
USB 2.0 x 3 / GbE x 2	USB 2.0 x 3 / GbE x 4	USB 2.0 x 3 / GbE x 4
ユーザ/グループ	ユーザ/グループ	ユーザ/グループ
-	-	-
標準1カメラ max 32	標準1カメラ max 48	標準1カメラ max 48
コピージョブ(CIFS / rsync)	コピージョブ(CIFS / rsync)	コピージョブ(CIFS / rsync)
EMC Atmos / Mozy / Amazon S3	EMC Atmos / Mozy / Amazon S3	EMC Atmos / Mozy / Amazon S3
3年間	3年間	3年間

アクセシブコミュニケーションズ、新製品情報

PTZドームネットワークカメラ

AXIS P5415-E

HDTV1080p、18倍光学ズーム、耐久性に優れたインテリジェント・ダイレクト・ドライブ・パン/チルト・システムを搭載。市街地や敷地周辺、駐車場や学校などの監視に最適。

壁面設置用のウォールブラケットが一体化されていることで金具を購入する必要がなく、壁面にぴったりと設置でき、建物の一部となる外観を実現。これにより、費用負担軽減はもちろん、壁面設置が素早く簡単にできる。

また、ベルトやギアといった駆動部品を持たないため耐久性に優れ、メンテナンス費用の軽減が可能。本製品は2つのモータのドライブシャフトにカメラ部分を直接接続し、各々がパン/チルトを効率的に作動させる。

さらに、非常に優れた感度を持つイメージセンサにより、暗い場所でも他の一般的なHDTV1080p PTZカメラより優れた画質を提供することが可能。

本製品の一体型のサンシールドは簡単に着脱が可能で、またその傾斜した形状により、カメラを引き下ろそうとする破壊やいたずら行為への対抗に効果がある。

内蔵のジャンクションボックスでは、双方向音声、メモリカード・スロット、入出力設定が可能な4つのI/Oポートが利用でき、電源として24V DCあるいはPoE Plus (IEEE 802.3at)のどちらにも対応。

本製品は270度のパン性能を持ち、コーナーマウント・ブラケットを使用し、建物の角に設置することも可能。高性能の18倍光学ズームにより、HDTV1080p(1920x1080ピクセル)

解像度で詳細の監視を提供しつつ、広い範囲を撮影できる。

またアドバンスド・ゲートキーパー機能



に対応し、定義済みの区域に動くものを感じた場合に、自動であらかじめ設定された位置にパン・チルト・ズームをさせることができる。

【製品価格(税別)】P5415-E : 279,800円

固定ネットワークカメラ

AXIS Q1614/Q1614-E

屋内用AXIS Q1614および屋外対応AXIS Q1614-E固定ネットワークカメラは、厳しい光環境でも人物や物体の識別が可能。さらに数々の革新的な設置機能を搭載。素早い動きの被写体を鮮明に捉え、通常の2倍のフレームレートで録画することができる。逆光のような明暗の差が大きい場所やほとんど光の射さない環境といった複雑な状況にも対応が可能。

本製品はHDTV720pの高解像度で、従来の一般的なカメラに利用されていたフレームレートの約2倍となる50fpsもしくは60fpsで撮影し録画することができる。例えば、製造ラインのベルトコンベア上を一瞬で通過するような素早い動きの被写体でも、詳細を鮮明に捉え識別精度を高めることができる。

また、アクセシブのワイドダイナミックレンジであるダイナミックキャプチャー(WDR)テクノロジー(以下、ダイナミックキャプチャー)により、太陽光が極端に明るい場所と暗い場所の両方を作り出すような、明暗の差が大きく複雑な光条件の撮影環境下でも、黒潰れや白飛びさせることなく、均整な画像を提供する。これにより、被写体となる人物や物体が、監視区域のどの明るさの地点にいるかにかかわらず識別できる。

さらに、同社のLightfinderテクノロジー(Lightfinder)により、極端に光量の少ない環境下でも効果的な監視を実現する。暗闇で白黒映像に切り替わる従来の一般的なデイ/ナイトカメラとは対照的に、Lightfinderを搭載したカメラは、ごくわずかな光量でもカラー画

像を提供する。

本製品には、カメラの最適なセットアップをサポートして設置時間を短縮し革新的な設置機能を新たに導入した。カメラを水平設置するためのアシスタント機能は、プザーとライトの点滅により、設置者がカメラを正しく水平に取り付けることを支援する。さらに、調節可能な高感度衝撃検知の機能を初めて搭載し、カメラが衝撃を受けた際、自動的に管理室にアラームを送信する。この機能は特に破壊行為が予想される場所でも有効で、カメラのダウンタイムを最小限に抑える上で有効。

そして、AXIS Camera Station



やApplication Development Partner Programを利用したサードパーティ製映像管理ソフトウェア(VMS)が利用可能で、ONVIFにも対応。

【製品価格(税別)】

AXIS Q1614 : 153,800円、

Q1614-E : 195,800円

サーマル・ネットワークカメラ

AXIS Q1931-E

本製品は堅牢性に優れ、設置条件の厳しい環境や気象条件での使用に向けて特別に設計された砲弾型(パレットスタイル)屋外対応サーマルカメラ。サーマル画像は高画質384x288の解像度を提供。また、アクセシブのCorridor Formatを採用した初めてのサーマルカメラで、産業設備や列車の線路などの監視にも最適。

また、本製品はまったく光の射さない暗闇や厳しい撮影条件下での屋外監視用に設計されている。この常識にとらわれない屋外対応カメラは、速やかな侵入検知が最も必要とされる設備の監視に最適。さらに、アクセシブ

独自のCorridor Formatにより縦長の視野で画像を提供できるため、縦に長い道路に沿ったフェンスや敷地境界線の撮影に効果的。



焦点距離別に用意された複数のレンズモデル、384x288の解像度、そして進化したイメージ・プロセッサにより、効果的に敷地周辺を撮影し、監視精度をより高めることができる。4つのレンズはその種類により220m(水平画角50度)から1800m(水平画角6度)まで、柔軟な検知範囲と視野角を提供する。さらに、H.264、Motion JPEG、双方向音声、ローカル・ストレージ、PoEといったIP監視の機能群の利用が可能。

インテリジェント映像機能として、いたずら警告および動体検知機能を提供。また、サードパーティ製アプリケーションをカメラにインストールして、映像を用いたインテリジェントシステムを構築できる、AXIS Camera Application Platformに対応。

【AXIS Q1931-Eの主な特長】

- ・ 小型軽量と堅牢性に優れ、耐衝撃のIK10、防水防塵のIP66、耐環境性能のNEMA 4Xに対応。
- ・ 極寒温度管理機能搭載の全天候型で、-40度から50度の温度環境での起動と作動が可能。
- ・ 侵入やいたずらを阻止する警告発報などに役立つ双方向音声。
- ・ エッジス・トレージ、AC/DC電源に対応。
- ・ ケーブル1本による簡易設置。PoE給電。簡単に設置ができるシンプルでわかりやすいハードウェア設計で、どのような状況でも手軽に高画質な撮影を実現。
- ・ 「AXIS Camera Station」やアクシス社の「Application Development Partner Program」によるサードパーティ製VMSの利用が可能。また、ONVIFに対応。

【製品価格(税別)】

Q1931-E : 489,700円から867,600円

パン/チルト/ズーム・カメラ

AXIS Q60シリーズ9種

【Q6042/-E/-Cの主な特長】

- ・ 拡張D1解像度、36倍光学ズーム搭載。

【Q6044/-E/-Cの主な特長】

- ・ HDTV720p、30倍光学ズーム搭載。
- ・ 電子動体ブレ補正機能により、風や交通に起因するカメラの振動による揺れの影響を減らし、より鮮明で使用に耐える映像を提供。
- ・ 自動デフォグ機能で撮影地の霧を検知し、デジタル処理による鮮明な映像を提供。

【Q6045/-E/-Cの主な特長】

- ・ HDTV1080p、20倍光学ズーム搭載。
- ・ ハイライト補正(視認しやすくなるよう強い光を覆い隠す機能)、物体の持ち取り検知機能、フェンス検知、オブジェクトカウント、出入り検出などの映像分析機能を内蔵。

【屋外対応Q6042-E/Q6044-E/Q6045-E】

- ・ より高性能のサージプロテクションを搭載。
- ・ EN/IEC61000-4-5、EN 55024、EN 50121-4(鉄道)、IEC 62236(鉄道)規格達成。
- ・ 極寒温度管理機能により-40℃極寒でも確実に起動し、厳しい気象環境の下での設置に最適。

【屋外対応Q6042-C/Q6044-C/Q6045-C】

- ・ 光ファイバによる接続が可能。
- ・ アクティブ冷却機能により最大75℃までの温度環境での使用可能。

【Q60シリーズの主な特長】

- ・ パワフルなCPU(中央演算装置)とコプロセッサの搭載で、より低ノイズで高画質、高い光感受性で鮮明な画像、H.264メインプロファイルで効果的な映像圧縮が可能。
- ・ 個別に設定された複数ストリームを同時配信。
- ・ 向上した処理能力と容量で、インテリジェント映像アプリケーションの実行性能を強化。
- ・ 衝撃検知機能を搭載。衝撃を受けたカメラは、衝撃を検知し警報を発する。
- ・ 調整可能なデイ/ナイト機能。カラー映像表示のデイモードと、低照度の状況で赤外線

利用し白黒映像を表示するナイトモードとの自動切り替えタイミングの事前設定が可能。

- ・ 輝度調整により、撮影場所の暗部を明るく表示することが可能。
- ・ 広範囲の監視に最適なエンドレス360度パンと高速450度/秒の正確なパン/チルト。
- ・ 高倍率ズームレンズによる高解像度映像の提供が可能で、遠隔地点の詳細な監視が可能。
- ・ 256個のプリセット・ポジションに自動巡回するガードツアー搭載。ガードツアーはツアー記録機能で簡単にセットアップが可能。
- ・ 映像動体検知、オート・トラッキング、アクティブ・ゲートキーパ機能。
- ・ AXIS Camera Application Platformによるインテリジェント映像アプリケーションが利用可能。
- ・ IP66とNEMA 4Xの防水防塵性能(製品名の末尾に-Eもしくは-Cのつくモデル)
- ・ 米国軍用規格MIL-STD-810Gに準拠。厳しい環境下でも高信頼性の動作を確保。
- ・ 内蔵のメモリカード上に数日間の映像を録画可能
- ・ 処理性能に影響しないHTTPS暗号化映像ストリーム。IPv4に加えIPv6に対応。
- ・ PoE対応。
- ・ AXIS Camera StationやApplication Development Partner Programによりサードパーティ製VMSの利用が可能。ONVIF対応。



【製品価格(税別)】

Q6042:342,800円、Q6042-E:419,800円、Q6042-C:489,700円、Q6044:398,800円、Q6044-E:475,700円、Q6044-C:545,700円、Q6045:426,800円、Q6045-E:503,700円、Q6045-C:573,700円



VIVOTEK社、スピード・ドーム・ネットワークカメラ製品群を強化

VIVOTEKは、スピード・ドーム・ネットワークカメラSUPREMEシリーズに新製品を投入して、製品ラインナップを強化した。具体的な製品はSD8314EおよびSD8324E、SD8316EおよびSD8326E。今回の新製品はD1解像度と18倍/36倍光学ズームレンズを搭載し、優れた高画質を提供することができる。

【パン/チルトと動体検知】

SD8314EとSD8324EそしてSD8316EとD8326Eは、パン/チルト機構と内蔵の自動追尾機能により、迅速かつ正確に360度のパンおよび220度のチルト機能を使用することができる。さらに、予め指定した区域内での動体検知を瞬時に行う。

【ワイドダイナミックレンジ】

SD8314EとSD8324EそしてSD8316EとD8326Eはまた、WDR技術によりコントラストの高い環境や逆光環境でも高画質を確保することができる。また、同社製デイ/ナイト・カメラと同様、昼夜を問わず鮮明な画像を維持するために、取り外し可能なIRカットフィルタを装備している。

【IP66とNEMA4X準拠】

SD8314EとSD8324EそしてSD8316EとD8326Eは、同社が既に市場に提供しているスピード・ドーム・ネットワークカメラSD8363Eと同様、防水防塵規格のIP66とNEMA(米国電機製造業協会)が制定した屋内外用非防爆用容器規格のNEMA 4Xを満たしたハウジング、洗練されたパン/チルト機構、さらに内蔵の自動トラッキング機能などにより、高性能を確保した設計となっている。IP66とNEMA4X定格のハウジングは、-40°C

から55°Cまでの温度範囲での動作を保証し、カメラ本体を雨や塵埃また腐食から保護し、極端な気象条件と危険な環境下での安定した動作を保証している。

【NEMA4X】

NEMA4Xに準拠する製品はステンレス鋼またはプラスチックで作られている。そしてその基準内容は次の通りである。偶発的な内部部品への接触防止、落下塵埃からの保護、吹き付けられる粉塵からの保護、飛沫からの保護、噴流からの保護、雨、みぞれ、雪からの保護、外部氷結後の機能の維持、腐食からの保護。

【幅広い利用範囲】

SD8314EとSD8324EそしてSD8316EとD8326Eは、このような優れた信頼性と精度を実現したことで、空港や港湾また競技場などの大規模な屋内外を問わず幅広い範囲での設置に適している。

これらの新製品について、VIVOTEK社副社長 スティーブ・マ氏は、「SD8363Eを2013年8月に発表した。そして市場から高評価を得ることができたため、この4機種を急遽開発して市場に提供することにした。これにより、SUPREMEシリーズのポートフォリオを強化することができた」と話す。

【会社概要】

VIVOTEK社は2000年に台湾で設立し、その後急速にセキュリティ業界の代表的ブランドの地位を確立した。現在では世界トップクラスのIP監視ソリューションを提供する企業との評価を獲得している。また同社は、システムのアプリケーションとの統合を得意としている。



積極的で革新性に富んだ研究開発を継続し、画期的なコーデック技術を採用することで、ネットワークカメラやビデオサーバ、ビデオレコーダや集中管理システムなど幅広く製品を供給している。そして、2006年に台湾証券取引所に上場し、2008年に米国カリフォルニア州に現地法人を設立している。VIVOTEK社は現在世界80カ国以上で150社以上の正規代理店と連携して事業を展開している。

【主要製品】

VIVOTEK社のネットワークカメラとしては、キューブ型と砲弾型、円筒型とボックス型と多種にわたる固定カメラ、PTZカメラ、ドームカメラ、それらのアクセサリがあり、さらにビデオサーバとNVR、さらにソフトウェアとしては、モバイル機器用のiViewerや中央管理ソフトウェアのVASTそしてビデオ管理ソフトウェアのST7501などを揃えている。

www.vivotek.com



Bosch Security Systems、日本初4Kネットワークカメラの試作機を発表・展示

Bosch Security Systemsは、監視ソリューションの最新技術であるUltra HDネットワークカメラ(4K/12Mピクセル)を開発中で、現在、製品化の最終段階に到達している。4Kネットワークカメラは、30フレーム/秒で3,840 x 2,160ピクセル(8Mピクセル、フルHDの4倍)の解像度を実現している。

ハイビジョンテレビの市場では、既に各メーカーから4K対応製品が出そろっており、高額商品にもかかわらず、量販店などでも好調な売れ行きを示している。監視ソリューションの分野でも、2013年9

月ISC West 2013(ラスベガス)において、Bosch Security Systemsの4Kネットワークカメラが世界で初めて公開された。さらに、11月22日、大阪で開催されたNEC販売会社による展示会であるネットコミュニティ関西「ソリューションフェア2013」で、日本初の4Kネットワークカメラの試作機を発表・展示した。

Bosch Security Systemsは、4Kカメラをはじめとする次世代のUltra HDネットワークカメラの開発を推進し、



●ISC West 2013での4Kネットワークカメラの試作機を展示模様

されたNEC販売会社による展示会であるネットコミュニティ関西「ソリューションフェア2013」で、日本初の4Kネットワークカメラの試作機を発表・展示した。

2014年にかけて多数の新製品を発表する予定である。今後、12Mピクセル・ネットワークカメラ、180度パノラマ/8Mピクセル固定ドーム型ネットワークカメラ、および業界最高の高解像度360度パノラマ固定ドーム型ネットワークカメラの発表を予定している。

AXSEEDのSPPM2.0、Apple iOS標準MDM機能に対応

AXSEEDは、モバイル端末管理(MDM: Mobile Device Management)システム『SPPM2.0』を2013年12月16日にバージョンアップし、Apple iOS標準のMDM機能に対応した。これにより、企業の端末管理者は、『SPPM2.0』を採用することで、各社員のiPhoneやiPadに対しWi-FiやVPN、メールサーバの遠隔設定などが可能となる。

『SPPM』は、純国産の最初の本格的なMDMシステムとして2007年にサービスを開始し、1,500社、合計端末台数150,000台を超える導入実績(2013年11月末時点)がある。モバイル端末市場は、今年に入りNTTドコモがiPhone販売に参入し、12月より法人向けにも販売を開

始している。iOS端末の法人利用が拡大する中、Android向け機能が充実していた『SPPM2.0』も今回のバージョンアップでiOS向け機能を大幅に拡充した。また、NTTドコモの法人向けサービス「ビジネスプラス」(※1)のiOS向けソリューションとしても『SPPM2.0』を提供する。

【SPPM2.0 iOS向け新機能】

今回のバージョンアップにより、iOS向けに下記の機能が新たに追加された。新機能は、『SPPM2.0』フル機能パックにより利用可能。

1. Apple iOS標準MDM機能

約150に及ぶ標準機能をSPPMの構成プロファイル配信機能により実現

※一部利用できないMDM機能あり。

2. MDM構成プロファイル

アンインストール検知機能

SPPM用のMDM構成プロファイルを端末から削除した場合に管理サーバのアラートを表示し、管理者および端末利用者に警告メールが届く。

3. レポート管理機能

端末のロック・ワイプなど緊急支持の発行状況が月に1回レポート化される。

※1: NTTドコモ「ビジネスプラス」は、NTTドコモが厳選したサービスの中から最大3つを組み合わせると月額525円(税込)で利用できる法人向けサービス

※2: 各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標

<http://www.axseed.co.jp/>



■ ミニボックス型カメラ MDF4220HD

- ・ 1.3メガピクセルCMOSセンサ(HD 720p/30fps対応)
- ・ H.264コーデック
- ・ IP経由でHD映像とBNC経由でアナログSD映像を送信
- ・ Fits all standard brackets with UNC threaded screws
- ・ 幅50mmで質量180g

ダルマイヤ・エレクトロニク/ドイツ
Email: info@dallmeier.com



■ エグザックビジョンUSB/I/Oモジュール

- ・ バージョン5.8以降の全exacqVisionハイブリッドおよびIPサーバと互換
- ・ WindowsまたはLinuxを実行しているサードパーティ製のサーバと互換
- ・ USBケーブル180cmとドライバ、取り付けブラケットと動作ソフトウェアが付属して数分でインストール
- ・ 外部電源が不要
- ・ エグザックビジョン・クライアント・ソフトウェアで設定可能
- ・ 1年間のハードウェア保証

Exacq Technologies/米国
Email: info@exacq.com



■ 8chプラグ&プレイ組込用NVR ENVR8304D

- ・ フルHD解像度
- ・ IP環境でなくてもアクセス画像を表示
- ・ 独立したPoEネットワーク・インタフェース8つと接続したIPカメラを自動検索
- ・ 簡単に設置できる設計
- ・ 効率的なディスク使用率とネットワーク帯域変換
- ・ iOSとAndroid機器上での遠隔視認をサポート

エヴァーフォーカス/台湾
Email: sales@everfocus.com.tw



■ NVR

- ・ Omnibrid技術とTCP/IPベースのデジタル・マトリクス機能を備えたIP NVR
- ・ 最大8のPoEまたはPoE対応+ IPカメラを直接接続。
- ・ 1000Mbit IPカメラポートを最大16まで拡張可能。
- ・ 全てのポートでDHCP機能と光の状態表示を使用して、IPカメラを簡単かつ迅速にインストール。
- ・ セットアップに追加費用なしで他社製外部スイッチを接続

ゲーテブルック/ドイツ
Email: info@geutebruck.com



■ 低照度HD対応IPカメラ V6202-Tシリーズ

- ・ 1/3"プログレッシブ・センサ搭載
- ・ デイ/ナイト切替式着脱可能なIRカット・フィルタ
- ・ WDR機能
- ・ ONVIF準拠
- ・ 最低照度0.01ルクス
- ・ 1,920×1,080か1,280×720で30fpsの高解像度画像を単独出力

Infinova/U.S.
Email: info@infinova.com



■ 防爆型カメラ IPR/IPD6132ESX3.6

- ・ トリガ信号
- ・ 3メガピクセル15fpsのストリーミング可能
- ・ ピクシレーションとスミアがなく、同時に明暗部を表示
- ・ 耐衝撃性素材で設計し最大強度を実現
- ・ 防爆と耐候性
- ・ 25mまでの赤外線機能

LILIN/台湾
Email: sales@meritlilin.com



■ 屋内用メガピクセル全方位IPカメラ

- ・ 5メガピクセル解像度
- ・ デジタルPTZ付き360度/180度パノラマビュー
- ・ プログレッシブCMOSセンサ
- ・ H.264とMJPEGの同時ストリーム
- ・ ONVIF準拠
- ・ PoE対応

March Networks/カナダ
Email: sales@marchnetworks.com



■ フルHD-SDI DVR HDC400F-PD

- ・ 4チャンネル, HD1,080p@120/100fpsでの録画/再生
- ・ カメラへの給電はPoC
- ・ CoCによるカメラ制御とファームウェアのアップデート
- ・ eSATA経由で最大16TBまで外部接続可能
- ・ 内蔵ダブルリーチ機能で2倍のHD-SDI伝送距離
- ・ PoCでWEBGATE社製固定/ドーム/砲弾型カメラと互換接続

WEBGATE/韓国
Email: sales@webgateinc.com



a&s海外雑誌 年間購読申込書

申込日 20 年 月 日

<input type="checkbox"/>	a&s INTERNATIONAL	(月刊)	9,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s ASIA	(月刊)	9,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s CHINA(簡体字)	(月刊)	9,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s INSTALLER(簡体字)	(月刊)	9,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s SOLUTION(簡体字)	(3の月季刊)	4,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s TAIWAN(繁体字)	(隔月刊)	6,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s TURKEY	(隔月刊)	6,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s ADRIA	(月刊)	9,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s ITALY	(隔月刊)	6 000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s INDIA	(月刊)	9,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/>	a&s VIETNAM	(3の月季刊)	4,000円	20	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月号より1年間購読

送 付 先	住所1:	
	住所2:	
	貴社名:	
	部署名:	
	電話:	FAX:
	役職名:	
	ご氏名:	
	E-MAIL:	

振 込 先	ゆうちょ銀行からの振込の場合
	口座記号: 10180 口座番号: 3723281 口座名: エーエスジャー (ド) ※ATM表記は、「エーエスジャー (ド) となります。
	他の金融機関からの振込の場合
	ゆうちょ銀行 店名: 〇一八 (読み ゼロイチハチ) 普通預金 口座番号: 0372328 ASJ 合同会社 (エーエスジャー ゴウドウガイシャ) ※ATM表記は、「エーエスジャー (ド) となります。
※振込手数料は、貴社にてご負担いただきますようお願い申し上げます。	
※発送は、入金確認とさせていただきます。	
※送付先は、日本国内に限定させていただきます。	

FAX番号 03-6206-0452

ASJ社 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10F 電話 03-6206-0448

定期無料購読のご案内

簡単な手続きで毎号お読みいただけます



① <http://www.asj-corp.jp/> にアクセス

② このバナーをクリック



③ 登録画面の全項目にご記入

④ 「送信する」をクリック



⑤ 登録完了メールをお送りします

最新号発行のたびに
アクセスするURLをお送りします

ASJ社

年間購読申込書

申込日 20 年 月 日



隔月刊 6,000円
(税、送料込)

20

年

月号より1年間購読

送付先	住所1：	
	住所2：	
	貴社名：	
	部署名1：	
	部署名2：	
	電話：	FAX：
	役職名：	
	ご氏名：	
E-MAIL：		

振込先	ゆうちょ銀行からの振込の場合 口座記号：10180 口座番号：3723281 口座名：エーエスジェー（ド） ※ATM表記は、「エーエスジェー（ド）」となります。
	他の金融機関からの振込の場合 ゆうちょ銀行 店名：〇一八（読み ゼロイチハチ）普通預金 口座番号：0372328 ASJ 合同会社（エーエスジェー ゴウドウガイシャ） ※ATM表記は、「エーエスジェー（ド）」となります。
	※振込手数料は、貴社にてご負担いただきますようお願い申し上げます。
	※発送は、入金確認度とさせていただきます。
※送付先は、日本国内に限定させていただきます。	

FAX番号 03-6206-0452

ASJ(Advanced Security Journal)社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10F
TEL：03-6206-0448 E-MAIL：reader@asj-corp.jp

読者の声

私有物件の保全に人権や肖像権は必要か？

映像監視カメラシステムは、今や防犯だけでなく業務管理や業務改善など多岐にわたり活用されている。ここでもやたらと指摘されるのが人権や肖像権問題だ。しかし、冷静に考えていただきたいのは、個人とか法人とかを問わず所有する施設や不動産敷地内における安全や改善を追求することと、人権や肖像権を持ち出すという考え方とは相容れないことだ。問題解決策として録画映像が有益となることは論を待たないからだ。

(東京 製造業)

音声も映像も活用次第

様々な電話による問い合わせを録音することに対して、異論をはさむ人は少ないだろう。用件の再確認や対応の不備などを改善するためにも役に立つからだ。これと同様に、各企業や店舗などの窓口においても、映像を録画してより質の高いサービスを提供することもまた重要だ。音声も映像もクレーム対策として導入するだけであれば、折角の投資効果を半減させるだけであり、本来求めているサービス向上を目指すべきだろう。

(東京 金融機関)

自動車や二輪車へのGPS搭載を真剣に考えるべき

景気回復が進んでいようがいが、自動車や二輪車の盗難は後を絶たない。しかも盗難車で事故を起こされたり破損されたりした時には、所有者は手の打ちようがない。保険会社もその経緯を把握できなければ保険金支払いを躊躇することもあるという。そこで、自動車は二輪車にGPS機能を搭載することを各メーカーは具体的に検討すべきではないだろうか。高度な自動運転技術の開発だけでなく、こちらにも注目していただきたい。

(千葉 流通業)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティ・システムを既に導入あるいは導入を予定している側、いずれの側からの応募をお待ちしています。ただし、特定企業や団体または個人に対する誹謗中傷または批判的な内容をご遠慮ください。

一例を挙げると、導入する場合の手順はどのように進めれば良いのか。導入前の事前説明についてはどこに相談すべきなのか。メーカーなのか販売会社なのか、システム構築企業や設置施工企業なのか、それともセキュリティ・コンサルタント企業なのか。セキュリティに関する疑問や意見また提案など、セキュリティ関連であれば詳細は問いません。掲載する場合は匿名扱いとしますので、個人情報漏洩することはありません。

なお、具体的な導入相談については、導入条件や環境についてできるだけ具体的な内容をご連絡ください。ご応募をお待ちしております。



a&s JAPAN編集部

TEL : 03-6206-0448

FAX : 03-6206-0452

MAIL : info@asj-corp.jp

第22回 セキュリティ・安全管理総合展

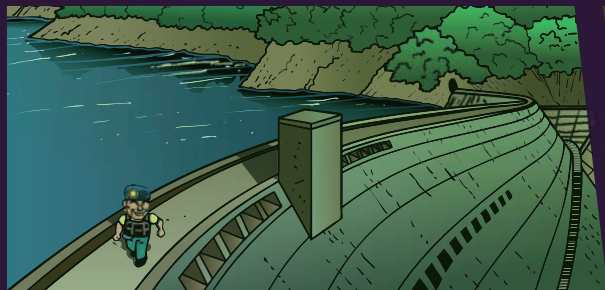
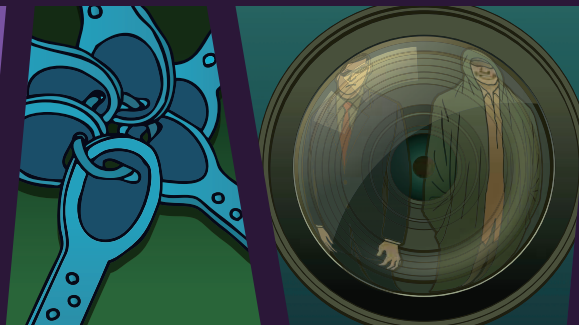
SECURITY SHOW 2014

防犯カメラからホームセキュリティまで、社会とビジネスの「安全・安心」を守る日本最大級の展示会！

3/4 火 ▶ 7 金

10:00 ~ 17:00
(最終日のみ16:30まで)

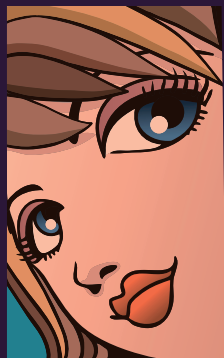
東京ビッグサイト
東2・3ホール



主催 日本経済新聞社

後援 警察庁、(独)情報処理推進機構、日本商工会議所、
全国商工会連合会
(順不同)

協力 テレビ東京、日経BP社
(順不同)



事前登録で
入場無料!

当日 = 2,000円(税込み)

<http://www.securityshow.jp/>...



耐衝撃型赤外線内蔵ドームカメラ

LCD-50VF NEW

撮像素子 1/3 インチ高感度 960H CCD
 総解像度 52 万画素 1028(H)×508(V)
 水平解像度 超高解像度 700TV本
 赤外線LED 赤外線LED18個(850nm, 30')、センサー1個
 赤外線照射距離 最大15m
 機能 WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)、フリッカーレス、デイ&ナイト(ICR)、デジタルノイズリダクション、プライバシーゾーン、ミラー機能、BLC(逆光補正)、モーション機能
 その他 耐衝撃型

デイナイトボックスカメラ

BCD-50F NEW

撮像素子 1/3 インチ高感度 960H CCD
 総解像度 52 万画素 1028(H)×508(V)
 水平解像度 超高解像度 700TV本
 機能 WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)、フリッカーレス、デイ&ナイト(ICR)、デジタルノイズリダクション、プライバシーゾーン、エクリプス、ミラー機能、BLC(逆光補正)、モーション機能



全天候小型デイナイトカメラ

WCD-50VF NEW

撮像素子 1/3 インチ高感度 960H CCD
 総解像度 52 万画素 1028(H)×508(V)
 水平解像度 超高解像度 700TV本
 機能 WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)、フリッカーレス、デイ&ナイト(ICR)、デジタルノイズリダクション、プライバシーゾーン、ミラー機能、SBLC(逆光補正)、モーション機能
 その他 同型のダミーカメラ(WCD-20VFD)もごさいます。

High Resolution Camera
 with **Effio**™

NEW PRODUCTS LINEUP

52万画素、洗練されたデザイン、最上画質！
 より鮮明な映像を可能にする960H CCDによる
 700TV本の高解像度！



パリフォーカルレンズ内蔵ドームカメラ

DBD-50VF NEW

撮像素子 1/3 インチ高感度 960H CCD
 総解像度 52 万画素 1028(H)×508(V)
 水平解像度 超高解像度 700TV本
 走査方式 2:1 インターレース
 レンズ DC アイリスパリフォーカルレンズ内蔵
 (f=2.8 ~ 10.5mm)
 レンズ画角 H78°×V62° ~ H26.1°×V19.9°
 機能 WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)、フリッカーレス、デイ&ナイト(ICR)、デジタルノイズリダクション、プライバシーゾーン、ミラー機能、BLC(逆光補正)、モーション機能

パリフォーカルレンズ内蔵ドームカメラ(マイク付)

DBD-50VFA 近日発売

撮像素子 1/3 インチ高感度 960H CCD
 総解像度 52 万画素 1028(H)×508(V)
 水平解像度 超高解像度 700TV本
 走査方式 2:1 インターレース
 レンズ DC アイリスパリフォーカルレンズ内蔵 (f=2.8 ~ 10.5mm)
 レンズ画角 H78°×V62° ~ H26.1°×V19.9°
 音声出力 3Vp-p(最大), 45dB (typ.)
 機能 WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)、フリッカーレス、デイ&ナイト(ICR)、デジタルノイズリダクション、プライバシーゾーン、ミラー機能、BLC(逆光補正)、モーション機能、マイク内蔵



パリフォーカルレンズ内蔵ドームカメラ(広角タイプ)

DBD-50VDW NEW

撮像素子 1/3 インチ高感度 960H CCD
 総解像度 52 万画素 1028(H)×508(V)
 水平解像度 超高解像度 700TV本
 走査方式 2:1 インターレース
 レンズ DC アイリスパリフォーカルレンズ内蔵 (f=2.5 ~ 6.0mm)
 レンズ画角 H108.2°×V80.4° ~ H47.6°×V35.6°
 機能 WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)、フリッカーレス、デイ&ナイト(ICR)、デジタルノイズリダクション、プライバシーゾーン、ミラー機能、BLC(逆光補正)、モーション機能

CNB 製品のお問い合わせは

CNB CNB Technology Inc. 日本総販売代理店

TP TENPO PLANNING 株式会社 店舗プランニング セキュリティ事業部

関西支店 仙台営業所 名古屋営業所 広島営業所 福岡営業所 技術センター

東京本社

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-46-3 シモモビル2階
 TEL:03-3378-4901 FAX:03-3378-4906 www.tenpo.co.jp

販売代理店募集中

製造元 CNB Technology Inc.